

第63表 第32号住居跡出土遺物計量表

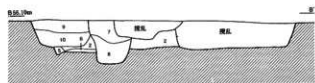
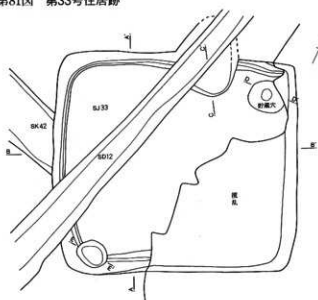
計量値	土師器							須恵器							鉄・石器	
	坏	皿	暗文坏	鉢	甕	甌	土付甕	その他	坏	蓋	鉢・鉢	高台坏	皿・盤	壺		甕
口縁部(片)	17				8											
(g)	435				75											
体部(片)	11		2		53											
(g)	28		5		272											
底(片)					2	1			2							
(g)					20	9			17							

## 第33号住居跡 (第81図)

調査区中央の65・66-9・10グリッドに位置する。本住居跡の北西側には第32号住居跡が存在する。第17号溝跡、第42号土壕と重複関係をもち、住居跡中央部を東西方向に第12号溝跡が走る。

平面形態は方形である。規模は主軸長3.53m、副軸長3.90m、深さ41cmである。主軸方位はN-73°-Wである。

## 第81図 第33号住居跡

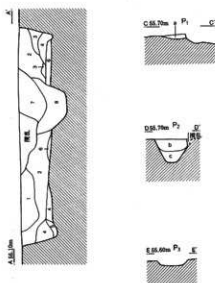


第33号住居跡

- 1 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多量、粘土粒子を少量含む
- 2 暗褐色土 ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む
- 3 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多量、炭化物を少量含む
- 4 暗褐色土 ローム粒子を多量含む
- 5 暗褐色土 ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む

床面は、ほぼ平坦である。南壁から東壁側は攪乱により壁および床面を検出できなかった。検出した壁部分には壁溝をもつ。

カマドは、北壁の中央部に構築されているが、第17号溝跡によって壊されていた。貯蔵穴は、カマド右側の北東コーナー部に検出した。形態は楕円形で、規模は長軸60cm、短軸49cm、深さ37cmである。



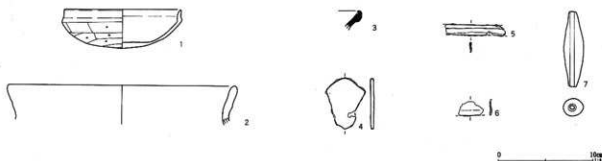
第33号住居跡 カマド・貯蔵穴

- a 黄灰色土 粘質土 粘土ブロック、炭化物を含む
- b 黒褐色土 ローム粒子を少量含む
- c 褐色土 ローム粒子を多量含む 中々粘質

- 6 暗褐色土 暗褐色粘土を多量、粘土粒子を少量含む
- 7 暗褐色土 砂質 ローム粒子を多量含む 天明火山灰混入含む
- 8 暗褐色土 ローム粒子を多量含む
- 9 黒色土 ロームブロックを多量含む
- 10 黒色土 ロームブロックを少量含む

0 2m

第82図 第33号住居跡出土遺物



第64表 第33号住居跡出土遺物観察表 (第82図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	土師器環	12.4	4.1		A D F	普通	褐色	50		木野産 鋳造品か
2	土師器甕	(24.0)	(4.1)		A B D F	普通	褐色	5		
3	須恵器甕				A	普通	青灰色			
4	板状鉄片	残存長 5.4、幅 4.2、厚さ 0.4cm、重量 23.1g								
5	用途不明鉄製品	残存長 6.3、幅 1.1、厚さ 0.2cm、重量 2.9g								
6	板状鉄片	残存長 2.6、幅 1.5、厚さ 0.2cm、重量 1.8g								
7	土師	残存長 8.0、幅 2.1、孔径 0.4cm、重量 26.7g					褐色	100		

第65表 第33号住居跡出土遺物計量表

計量値	土師器							須恵器					鉄石器			
	環	皿	暗文環	鉢	甕	瓶	台付甕	その他	環	蓋	椀・鉢	高台環	皿	壺	甕	鉄器
口縁部(片)	1				6			1	1					1		3
(g)	85				65			27	2					5		28
体部(片)	28				96											2
(g)	75				535											28
底部(片)									2				1			
(g)									17				8			

第34号住居跡 (第83・84図)

調査区の66-9グリッドに位置する。本住居跡の西側は調査区外となり、検出した遺構は北壁から東壁の一部である。東側には第35号住居跡、北側には第32・33号住居跡が存在する。

平面形態は方形と推定される。規模は南北軸長4.00m、東西軸長1.93m、深さ9cmである。主軸方位はN-41°-Eである。

床面には後世の柱穴P2~P7が存在するがほぼ平坦で

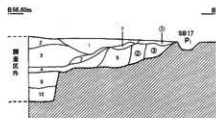
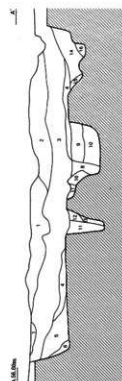
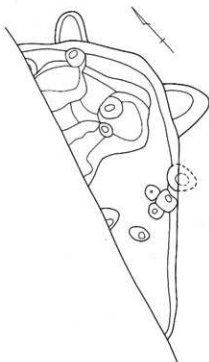
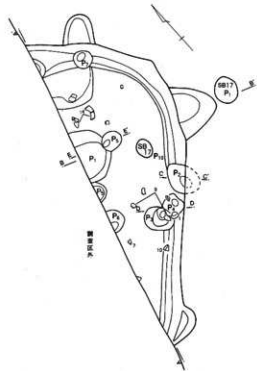
ある。P1は掘り方をもち深さ50cm、柱を建てて周囲に貼り床を施していた。住居跡の掘り方は住居中央部を荒掘し、第4層のローム粒子を充填し貼り床していた。壁溝は全周する。P1は本住居跡の主柱穴であり、深さは120cmである。カマドは、北壁に検出した。貯蔵穴は検出できなかった。

遺物は、底部回転ヘラケズリの須恵器環G、高台付環、底部手持ちヘラケズリの環を検出した。

第66表 第34号住居跡出土遺物計量表

計量値	土師器							須恵器					鉄石器			
	環	皿	暗文環	鉢	甕	瓶	台付甕	その他	環	蓋	椀・鉢	高台環	皿・盤	壺	甕	鉄器
口縁部(片)	26	6	3	2	22			1	4	3		1				
(g)	216	71	134	71	454			32	167	22		58				
体部(片)	56			5	140											5
(g)	218			21	846											48
底部(片)					2		2		1							
(g)					39		62		1							

第83図 第34号住居跡・掘り方



## 第34号住居跡

- 1 暗褐色土 褐色土ブロック、ローム粒子を少量含む
- 2 黒色土 褐色土を含む
- 3 褐色土 ローム粒子、焼土粒子を微量含む
- 4 暗褐色土 ローム粒子をやや多量含む
- 5 暗褐色土 ローム粒子を少量含む
- 6 褐色土 ローム粒子をやや多量含む
- 7 黒色土 褐色土を含む
- 8 褐色土 ローム粒子をやや多量含む(柱抜き取り)
- 9 褐色土 ロームブロックを含む
- 10 褐色土 9層に近接し ロームブロックを多量含む
- 11 暗褐色土 柱痕
- 12 暗褐色土 ローム粒子を含む(掘り方)
- 13 褐色土 ロームブロックを含む(掘り方)
- 14 暗褐色土 焼土粒子を少量含む
- 15 褐色土 ロームブロックを含む
- 16 暗褐色土 ロームを殆ど含まない
- ① 暗褐色土 ローム粒子を微量含む
- ② 暗褐色土 ローム粒子を少量含む(柱抜き取り?)
- ③ 暗褐色土 ロームブロックを含む(掘り方埋土か?)

## 第34号住居跡 P12

- 1 暗褐色土 白色粘土ブロック少量含む
- 2 白色粘土 褐色土少量含む
- 3 褐色土 白色粘土ブロックを少量含む

## 第34号住居跡 P113

- 1 暗褐色土 ローム粒子を微量含む(柱痕)
- 2 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを少量含む

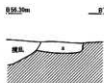
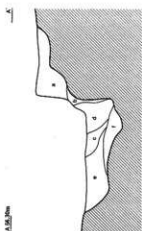
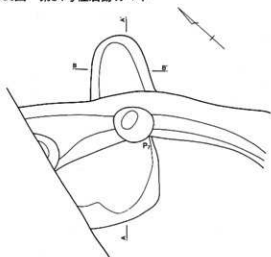
## 第34号住居跡 P114

- 1 暗褐色土 褐色土ブロック、ローム粒子を含む
- 2 褐色土 ローム粒子を含む

## 第34号住居跡 P115

- 1 褐色土 ロームブロック、褐色土ブロックを少量含む
- 2 暗褐色土 ロームブロックをまばらに含む

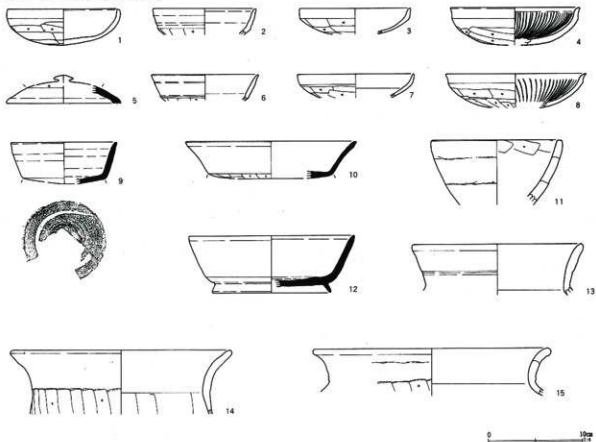
第84図 第34号住居跡カマド



第34号住居跡 カマド

- a 明褐色土 焼土ブロックを多量、黄灰色粘土粒子を含む
- b 褐色土 1層に近似、焼土粒子を少量含む 中々暗い色調
- c 褐色土 黄灰色粘土、焼土ブロックを含む
- d 暗灰褐色土 ピット（カマドを切っている）
- e 暗褐色土 ロームブロックを多量、焼土粒子、炭化物を少量含む（掘り方）
- f 褐色土 硬質 ローム粒子多量含む（掘り方か？）

第85図 第34号住居跡出土遺物



第67表 第34号住居跡出土遺物観察表(第85図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	土師器環	11.8	3.7		ABCDEF	普通	褐色	70	No10	放射状暗文 未野産
2	土師器環	(11.0)	(2.8)		ABDEF	普通	淡褐色	10		
3	土師器環	(11.7)	(2.7)		ABF	良好	赤褐色	15		
4	土師器環	(13.6)	(4.0)		ABCDF	普通	橙褐色	40		
5	須恵器蓋	(12.2)	(1.9)		ACDF片	良好	灰色	20		
6	土師器環	(11.4)	(2.7)		ABCDEF	普通	橙褐色	10		
7	土師器環	(11.3)	(2.5)		ABDEF	普通	褐色	15	No11	
8	土師器環	(15.0)	(3.6)		ABCDEF	良好	明褐色	20		
9	須恵器環	11.0	(4.4)	8.7	ACDF片	良好	青灰色	70	No7-No9	
10	須恵器環	(17.8)	(3.9)	(13.4)	ACDF片	良好	灰色	15	No12	
11	土師器鉢	(14.0)	(6.7)		ABD	不良	暗褐色	10		
12	須恵器高台碗	(17.5)	6.1	(12.6)	ADF	良好	灰色	20		
13	土師器壺	(17.8)	(5.4)		ABCDEF	普通	淡褐色	5		
14	土師器甕	(23.0)	(6.7)		ABCDEF	良好	褐色	40	No2-No3	
15	土師器甕	(25.4)	(5.0)		ABCDEF	普通	褐色	5		

第35号住居跡(第86・87図)

調査区の67-9・10グリッドに位置する。本住居跡の南側には第36・37号住居跡が存在する。第12・15・17号溝跡と重複関係をもち、住居跡内を南北方向に切り込んでいた。また、北東コーナー部には攪乱を受けていた。

平面形態は方形である。規模は主軸長4.93m、副軸長4.56m、深さ35cmである。主軸方位はN-45°-Wである。

床面は、ロームブロックを主体とする黄褐色土によって貼り床されほぼ平坦である。壁は垂直に立ち上がり壁溝は全周する。住居跡の掘り方は、住居の各コーナー部分の四隅に円形の掘り込みを持つ。

カマドは、北壁の東寄りに構築されている。規模は、全長120cm、焚き口幅70cm、焼成部の最大幅は45cm、掘り込みの深さは5cmである。カマド右袖は壁から50cmほどの位置まで残存していた。断面観察によると袖は灰褐色粘土を微量含む暗褐色土によって造られてい

た。左袖は残存しない。第e層の灰層を検出し、その上層の第d層は焼土ブロックを多量に含む暗赤褐色土で天井部の崩落土と考えられる。

貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。

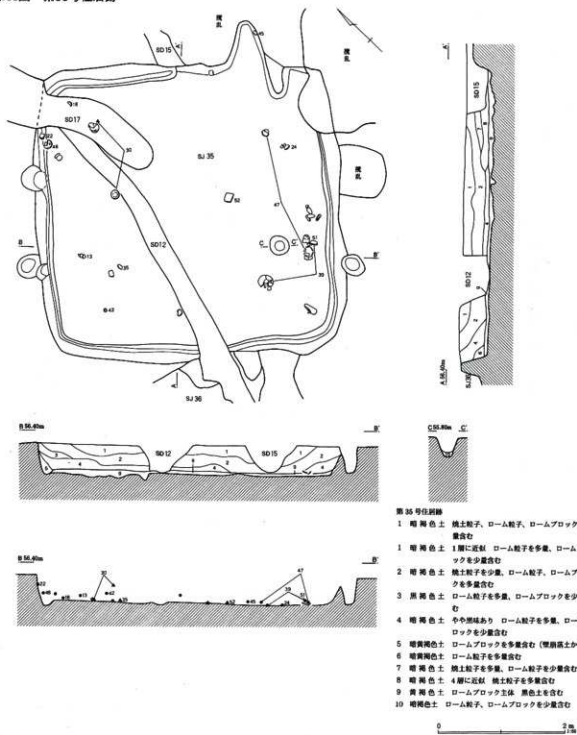
遺物は、住居跡床面上の全体から出土した。土師器環、皿、暗文環、鉢、甕、甕、台付甕、須恵器環、蓋、碗、高台付甕、壺、甕などを検出した。

土師器は、1~8、21が模倣環である。9~16、22は北武蔵型環、23~27は皿である。図示した須恵器はいずれも未野産である。環の底部調整は、30が全面回転ヘラケズリ、34はヘラ起こシコマ、35、36は回転ヘラケズリである。42は手づくね土器である。43は大型甕である。口縁部内面は横方向、胴部内面は縦方向のミガキを施す。外面は縦方向のヘラケズリである。甕はいずれも長胴である。50、51は器形の異なる鉢である。52、53は須恵器甕の胴部破片である。外面は平行叩き、内面は青海波文が残る。

第68表 第35号住居跡出土遺物計量表

計量値	土師器										須恵器				鉄石類	
	環	皿	暗文環	鉢	甕	甕	台付甕	その他	環	蓋	鉢・鉢	高台環	皿・壺	壺		甕
口縁部(片)	84	19	12	3	70				2	4	2					3
(g)	773	365	224	356	1003			75	238	31			32			74
体部(片)	69		18		597			3					脚部1	1	2	
(g)	270		152		4592			71					19	7	470	
底部(片)				1	13	4	台部2	4	4				1			
(g)				59	1097	275	39	535	87				21			

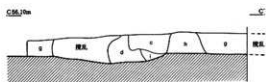
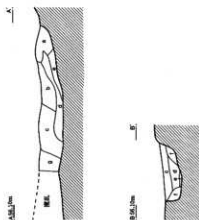
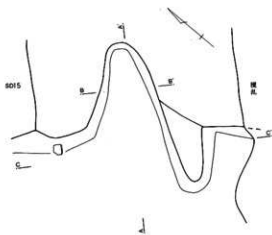
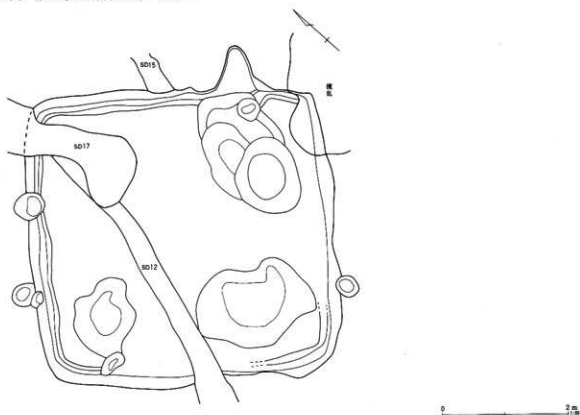
第86図 第35号住居跡



第69表 第35号住居跡出土遺物観察表 (第88・89図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	土師器杯	(10.2)	(2.9)		ABF	普通	暗褐色	15		
2	土師器杯	(9.5)	(2.4)		F	普通	褐色	5		
3	土師器杯	(11.6)	(2.9)		ACF	普通	褐色	5		
4	土師器杯	(11.2)	(3.3)		ABCF	普通	褐色	5		
5	土師器杯	(11.1)	(3.4)		DF	普通	黒褐色	5		

第87図 第35号住居跡掘り方・カマド

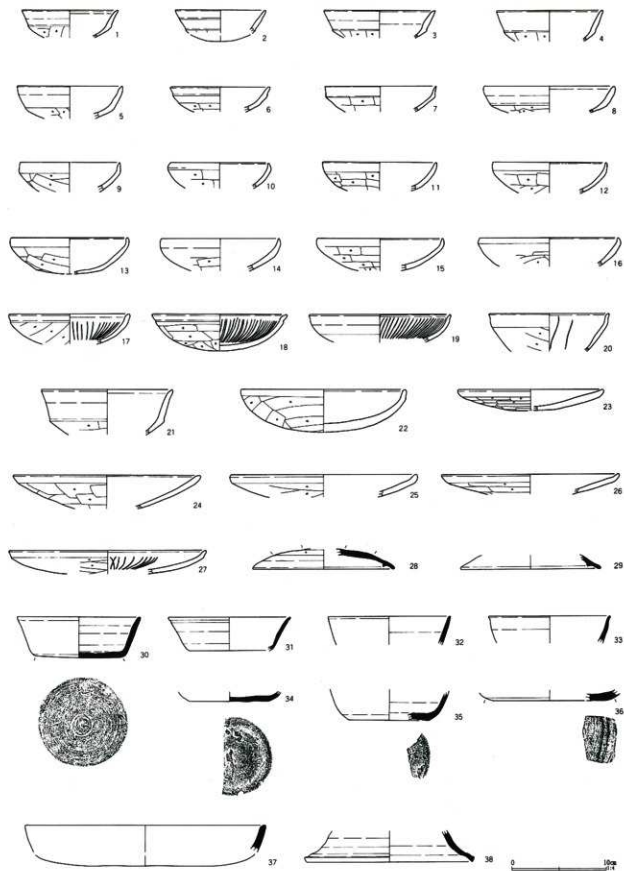


第 35 号住居跡 カマド

- a 暗褐色土 6期に近似 焼土粒子を少量含む(木炭による焼丸観察)
- b 暗褐色土 焼土粒子を多量含む
- c 暗赤褐色土 焼土粒子を多量、焼土ブロックを少量含む
- d 暗赤褐色土 焼土ブロックを多量含む
- e 黒色土 灰層 焼土ブロック、炭化物を多量含む
- f 暗褐色土 ローム粒子を多量含む
- g 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子を少量含む
- h 暗褐色土 灰褐色粘土塊を含む(カマド跡)
- i 黄褐色土 ロームブロックを含む

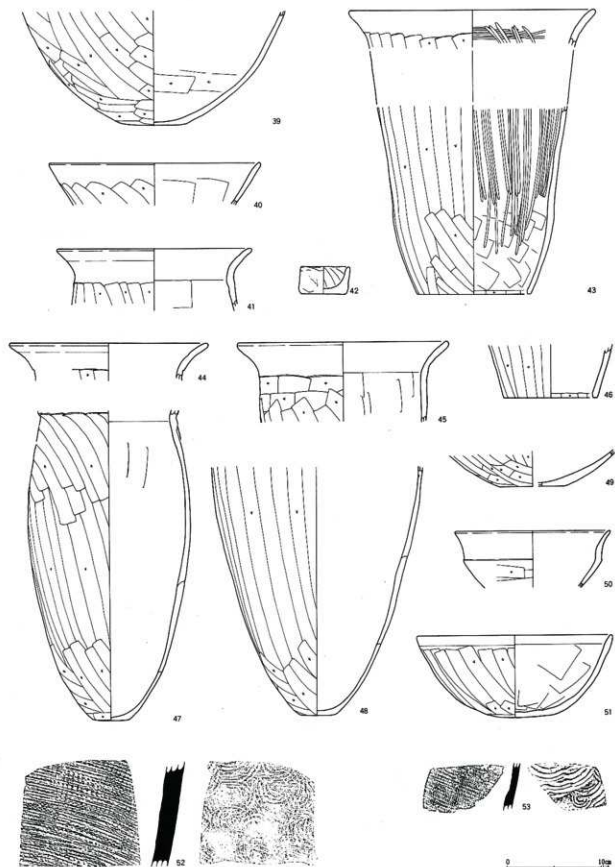


第88図 第35号住居跡出土遺物(1)





第89図 第35号住居跡出土遺物(2)



番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
6	土師器坏	(10.4)	(2.6)		ABC F	普通	明褐色	5		
7	土師器坏	(11.8)	(2.7)		ACDF	普通	明褐色	10		
8	土師器坏	(13.7)	(2.8)		ABC F	普通	暗褐色	5		
9	土師器坏	(10.5)	(3.1)		ADF	普通	褐色	10		
10	土師器坏	(10.4)	(2.7)		BDF	普通	暗褐色	5		
11	土師器坏	(12.0)	(3.0)		DF	普通	暗褐色	20		
12	土師器坏	(12.0)	(3.3)		ABCDF	普通	褐色	5		
13	土師器坏	(12.2)	(3.8)		ABC F	普通	褐色	40	No.11	
14	土師器坏	(12.4)	(3.4)		DF	普通	明褐色	15		
15	土師器坏	(13.3)	(3.4)		CDF	普通	暗褐色	15	77-右袖	
16	土師器坏	(14.8)	(3.0)		ABCDF	普通	褐色	5		
17	土師器坏	(12.6)	(3.2)		ABC F	普通	橙褐色	15		放射状暗文
18	土師器坏	(14.1)	3.9		ABC F	普通	橙褐色	30	No.16	放射状暗文
19	土師器坏	(14.9)	(3.0)		AC	普通	黑色	15		放射状暗文 内外面研磨
20	土師器坏	(12.7)	(4.0)		ADF	普通	暗褐色	5		放射状暗文
21	土師器坏	(13.8)	(4.7)		AF	普通	橙褐色	5		
22	土師器皿	17.4	4.5		ABC F	普通	褐色	50	No.15	
23	土師器皿	(15.3)	(2.2)		ABCDF	普通	暗褐色	10		
24	土師器皿	(19.7)	(3.6)		ABDF	普通	褐色	25	No.2	
25	土師器皿	(19.7)	(2.4)		ADF	普通	暗褐色	5		
26	土師器皿	(18.8)	(2.1)		ABDF	普通	褐色	20		
27	土師器皿	(20.3)	(2.5)		ACF	普通	暗褐色	5		放射状暗文
28	須惠器蓋	(15.0)	(2.1)		A F片	良好	褐灰色	25		木野産
29	須惠器蓋	(15.0)	(1.5)		ABC片	良好	黒灰色	10		木野産
30	須惠器坏	13.2	4.3	9.2	ACDF片	良好	暗灰色	100	No.12・No.17	木野産
31	須惠器坏	(13.0)	(3.5)	(8.4)	ADF片	良好	灰色	20		木野産
32	須惠器坏	(13.0)	(2.0)		AD片	良好	灰色	5		木野産
33	須惠器坏	(13.0)	(1.9)		ADF片	良好	褐灰色	5		木野産
34	須惠器碗	(1.1)	(8.4)		ABDF片	良好	灰色	50		木野産
35	須惠器坏	(3.3)	(8.6)		ABC F片	不良	褐灰色	20	No.10	木野産
36	須惠器盤	(1.2)	(12.0)		A F片	良好	淡灰色	15		木野産
37	須惠器盤	(25.6)	(4.3)		ACDF片	普通	淡灰色	20		木野産
38	須惠器高盤	(3.3)	(19.6)		A F	良好	灰色	15		産地不明
39	土師器甕	(12.0)	7.0		ABDF	普通	暗褐色	50	No.4・No.5	
40	土師器鉢	(22.0)	(4.4)		ABCDF	普通	暗褐色	5		
41	土師器甕	(20.5)	(6.6)		ABDF	普通	褐色	5		
42	手捏土器	5.0	2.9	4.8	ABCD	普通	暗褐色	100	No.8	
43	土師器甕	(26.0)	(30.0)	(12.0)	ABD	普通	暗褐色	20		内面にミガキ
44	土師器甕	(21.8)	(4.0)		ABDF	普通	暗褐色	15		
45	土師器甕	(22.1)	(8.5)		ABDF	普通	褐色	20	No.19・77-77-付近	
46	土師器甕	(5.6)	(10.0)		ABD	普通	茶褐色	20		
47	土師器甕	(32.7)	4.0		ABCDE F	普通	茶褐色	30	No.1・No.18	
48	土師器甕	(26.3)	4.0		ABCDE F	普通	橙褐色	40	No.14	
49	土師器壺	(3.7)	(7.0)		ABD	普通	茶褐色	10		
50	土師器鉢	(16.3)	(6.0)		ABF	普通	褐色	10		
51	土師器鉢	(21.6)	8.7	7.5	ABDF	普通	褐色	40	No.4	
52	須惠器甕				ACDF片	良好	淡灰色		No.6	木野産
53	須惠器甕				A F片	良好	白灰色			木野産

## 第36号住居跡 (第90・91図)

調査区の67-9グリッドに位置する。本住居跡の北側には第35号住居跡、南側に第37号住居跡が存在する。第12・14号溝跡と重複関係をもち、住居跡内を南北方向に切り込んでいた。また、北東コーナー部には第35号住居跡と重複する。

平面形態は方形である。規模は主軸長3.30m、副軸長3.17m、深さ45cmである。主軸方位はN-28°-Wである。

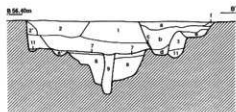
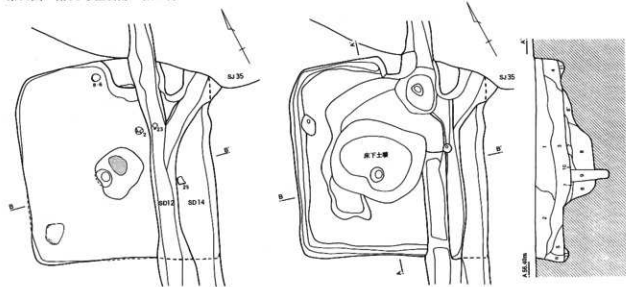
床面は、ローム粒子を主体とする黄褐色土によって

貼り床されほぼ平坦である。住居跡中央部には焼土化していた。鍛冶跡の可能性もある。貼り床直下に床下土壌を検出した。

カマドは、北壁の東寄りに構築されていたが、第12号溝が切り込み規模は不明である。カマド両袖は残存し、暗灰褐色粘土によって構築され、左袖先端から土師器甕を出土した。

遺物は、土師器杯、暗文杯、甕、台付甕、須恵器杯、甕などを検出し、24は球片である。

第90図 第36号住居跡・掘り方



## 第36号住居跡

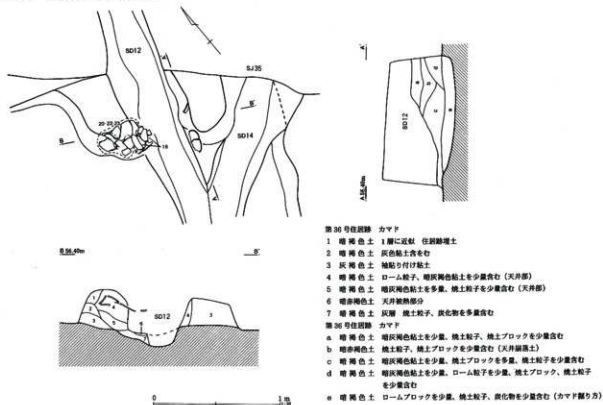
- 1 暗褐色土 ローム粒子を多量、焼土粒子を少量含む
- 2 暗褐色土 ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む
- 3 暗褐色土 2層よりローム粒子を多量含む
- 4 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多量含む
- 5 暗褐色土 3層に近似し、ローム粒子を多量含む
- 6 暗褐色土 5層よりローム粒子を少量含む
- 7 黄褐色土 しまり直し、褐色土を含む(ローム粒子を主とする貼り床)
- 8 褐色土 ローム粒子、褐色土を含む(柱穴周り方)
- 9 褐色土 8層に類似し、ややしまりもつ
- 10 黒褐色土 柱痕
- 11 灰褐色粘土 粘りあり
- 12 褐色土 ロームブロックを含む(壁埋埋)

## 第36号住居跡 SD-12・14

- a 暗褐色土 ローム粒子を多量含む
- b 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子を少量含む
- c 暗褐色土 ローム粒子多量、焼土粒子を少量含む
- d 暗褐色土 ローム粒子多量、焼土粒子を少量含む
- e 暗褐色土 ローム粒子を多量、焼土粒子を少量含む
- f 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多量含む

0 2m

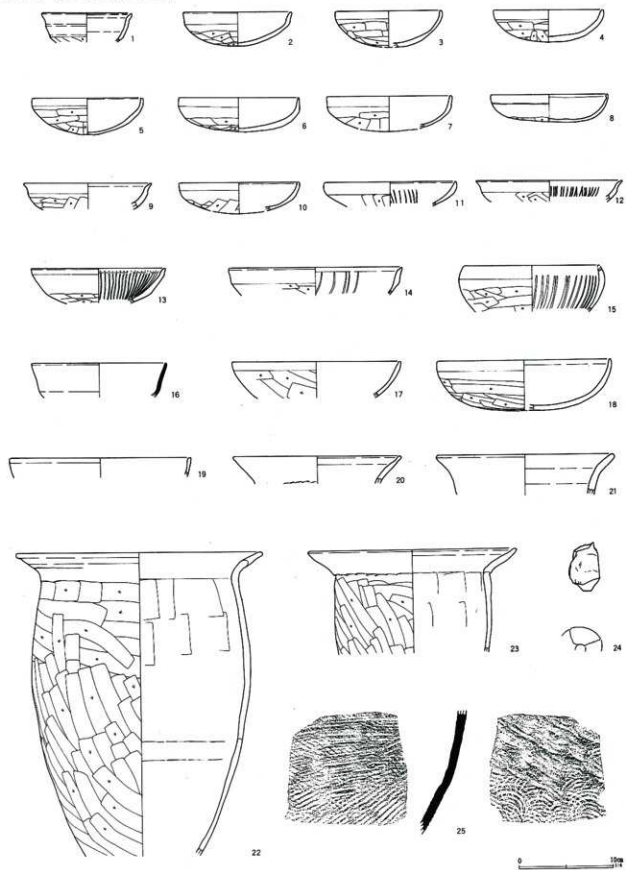
第91図 第36号住居跡カマド



第70表 第36号住居跡出土土物観察表（第92図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	土師器環	(9.6)	(3.1)		ABDE	普通	赤褐色	15	No.3	
2	土師器環	11.4	3.6		ABCDEF	良好	褐色	100		
3	土師器環	(11.4)	(3.8)		ABDE	普通	橙褐色	30		
4	土師器環	(11.7)	3.4		ABDE	普通	褐色	30	No.1	
5	土師器環	(11.7)	3.8		ABDE	普通	褐色	40		
6	土師器環	12.7	3.7		ABCDEF	良好	茶褐色	100		
7	土師器環	(13.0)	(3.7)		ABCDEF	良好	茶褐色	20	No.2	
8	土師器環	12.4	2.9		ABCDEF	良好	茶褐色	100		
9	土師器環	(13.5)	(2.7)		ABCDEF	良好	褐色	20	*71'内No.3	
10	土師器環	(12.7)	(3.3)		ABCDEF	普通	褐色	20		
11	土師器環	(14.0)	(2.6)		ABDE	普通	明褐色	10	*71'掘り方	放射状暗文
12	土師器環	(14.5)	(2.3)		ABDE	良好	橙褐色	10		
13	土師器環	(14.0)	(3.7)		ABDE	良好	橙褐色	20		
14	土師器環	(18.3)	(3.0)		ABDE	普通	赤褐色	5	No.5	放射状暗文
15	土師器環	(14.2)	(4.9)		ABDE	普通	赤褐色	20		
16	須恵器環	(14.0)	(3.6)		ACDF片	普通	灰色	10	SJ-36P1	末野産
17	土師器環	(17.8)	(3.8)		ABDE	普通	橙褐色	15	*71'内No.3・No.5	
18	土師器環	(18.5)	(5.3)		ABDEF	良好	明褐色	40		
19	土師器碗	(19.2)	(2.1)		ABDE	普通	褐色	5	*71'内No.6	
20	土師器甕	(17.6)	(2.9)		ABCDEF	普通	褐色	20		
21	土師器甕	(18.6)	(4.3)		ABCDEF	普通	褐色	20	*71'内No.6	
22	土師器甕	(25.9)	(32.2)		ABDF	普通	褐色	40		
23	土師器甕	(22.0)	(11.0)		ABCDEF	良好	褐色	30	No.4・*71'内No.6	
24	羽口	残存長 5.2、幅 3.2cm、重量 41.2g					褐色	30		
25	須恵器甕				ACDF片	良好	紫灰色		No.5	末野産

第92図 第36号住居跡出土遺物



第71表 第36号住居跡出土物計量表

計量値	器種	土師器							須恵器						鉄石器	
		坏	甗	暗文坏	鉢	甕	白付甕	その他	坏	蓋	椀・鉢	高台坏	皿・盤	壺		甕
口縁部(片)	79		5		34			1	4							
(g)	1053		74		1777			41	21							
体部(片)	101		11		351									3		
(g)	325		50		2301									218		
底部(片)					1		1		2							
(g)					7		21		45							

第37号住居跡 (第93図)

調査区の67・68-9グリッドに位置する。本住居跡の北側には第35・36号住居跡が存在する。第15号溝跡と重複関係をもつ。住居跡の北西コーナー部を南北方向に切り込んでいた。

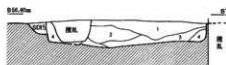
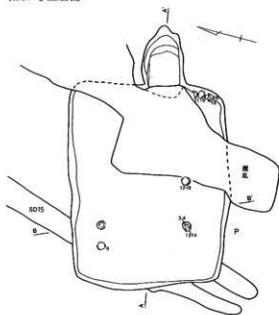
平面形態は長方形である。規模は主軸長3.25m、副

軸長2.50m、深さ35cmである。主軸方位はN-79°-Wである。

床面は、ほぼ平坦である。壁溝はもたない。

カマドは、北壁の中央に構築されていた。規模は全長96cm、燃焼部幅65cm、深さは12cmほどである。

第93図 第37号住居跡



第37号住居跡

- 1 褐色土 ローム粒子を少量含む
- 2 褐色土 ローム粒子をやや多量、焼土粒子を少量含む
- 3 暗褐色土 ローム粒子を少量、ロームブロックをまばらに含む
- 4 褐色土 ローム粒子、黒色土をやや多量含む

第37号住居跡 カマド

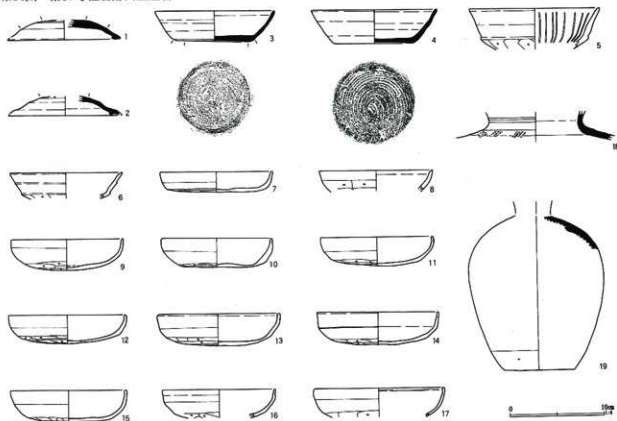
- a 暗褐色土 ローム粒子を多量、ロームブロック、灰褐色粘土、焼土粒子を少量含む (天井部)
- b 暗赤褐色土 焼土粒子、ローム粒子を多量、焼土ブロック、ロームブロックを少量含む (灰井裏土)
- c 暗褐色土 ローム粒子を多量、灰褐色粘土を少量、黒色土を含む
- d 暗赤褐色土 灰褐色土粒子、焼土ブロックを多量、炭化物を少量含む

0 2m

遺物は、土師器環、暗文環、甕、須恵器環、蓋、壺、甕などを検出した。図示した須恵器は末野産Ⅲである。3は底部外面糸切り離し後、外周回転ヘラケズリ、4

は糸切り離シママである。土師器環は口径やや大きく、器高をやや浅くする。口縁部は上方に立ち上がる。

第94図 第37号住居跡出土遺物



第72表 第37号住居跡出土遺物観察表 (第94図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	須恵器蓋	(12.0)	(2.0)		ACD片	普通	青灰色	15		末野産
2	須恵器蓋		(2.1)		ACDF片	普通	乳灰色	15		末野産
3	須恵器環	12.8	3.2	7.4	ADF片	良好	黄灰色	100	No.3	末野産
4	須恵器環	13.4	3.5	8.4	ADF片	普通	黄灰色	100	No.3	末野産
5	土師器環	(13.8)	(4.4)		ADF	普通	茶褐色	10		放射状暗文
6	土師器環	(12.0)	(2.7)		ABDE	普通	暗灰色	5		
7	土師器環	(11.8)	2.6		BEF	普通	茶褐色	15		
8	土師器環	(11.9)	(2.2)		ADF	普通	褐色	5		
9	土師器環	12.0	3.4		ABCDEF	普通	赤褐色	100	No.1	
10	土師器環	11.6	4.1		ACDEF	普通	橙褐色	50	No.7	
11	土師器環	11.8	3.1		ABCDEF	普通	橙褐色	50	No.9	
12	土師器環	12.4	3.0		ABCDE	良好	茶褐色	95	No.6	
13	土師器環	13.2	3.4		ABDE	普通	茶褐色	95	No.4-No.5	
14	土師器環	12.8	3.4		ABEF	普通	茶褐色	80	No.5	
15	土師器環	12.4	3.3		ABDEF	普通	茶褐色	100	No.8	
16	土師器環	(11.9)	(3.0)		ABDEF	普通	橙褐色	20	No.7	
17	土師器環	(13.8)	(3.0)		ADF	普通	茶褐色	15		
18	須恵器蓋		(3.2)		ACD片	良好	暗灰色	20		末野産
19	須恵器長頸壺		(16.4)	7.4	ACD針	良好	灰色	100	No.6	南比金産

第73表 第37号住居跡出土遺物計量表

器種 計量値	土師器								須恵器							鉄・石器
	環	皿	暗文環	鉢	甕	甗	台付甕	その他	環	蓋	椀・鉢	高台環	皿・盤	壺	甕	
口縁部(片)	34		1		17			1	2	2					2	1
(g)	836		24		166			52	315	31					14	16
体部(片)	35		4		89					1					2	3
(g)	206		17		569					7					67	108
底部(片)					1										1	
(g)					5										1163	

第38号住居跡 (第95図)

調査区の66-10グリッドに位置する。本住居跡の東側は調査区外となり、検出した遺構は北壁から西壁の一部である。西側には第33号住居跡が存在する。

平面形態は不明である。残存規模は南北軸長2.80m、東西軸長0.76m、深さ24cmである。主軸方位はN-38°-

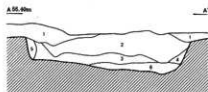
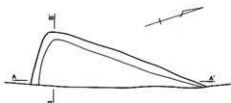
Eである。

床面は、北方向に緩やかな傾斜を持っていた。

カマド、柱穴、貯蔵穴は検出できなかった。

遺物は、わずかに土師器甕、須恵器環、椀を検出した。

第95図 第38号住居跡



第38号住居跡

- 1 黒褐色土 ローム粒子を少量、灰褐色土を含む
- 2 褐色土 ローム粒子を少量含む
- 3 褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多量含む
- 4 褐色土 ローム粒子を多量含む
- 5 黄褐色土 ローム粒子、ロームブロック主体、黒色土を含む
- 6 黒褐色土 ロームブロックを多量含む

0 2m

第74表 第38号住居跡出土遺物計量表

器種 計量値	土師器								須恵器							鉄・石器
	環	皿	暗文環	鉢	甕	甗	台付甕	その他	環	蓋	椀・鉢	高台環	皿・盤	壺	甕	
口縁部(片)					2											
(g)					28											
体部(片)					9				2		1					
(g)					64				9		11					
底部(片)																
(g)																



## 2. 掘立柱建物跡

### 第1号掘立柱建物跡 (第96図)

調査区中央60・61-10・11グリッドに位置する。西側は調査区外に伸びる。第3号住居跡と重複関係を持ち、住居跡覆土中に柱穴を検出したことから本建物跡が新しいと判断した。北側には建物跡と並行して第1号欄列が存在する。

建物全体の規模は不明であるが、2間(5.50m)×3間(6.60m)の側柱建物である。桁間は2.20m、梁間

### 第2号掘立柱建物跡 (第97図)

調査区中央59-11グリッドに位置する。西側には第14号掘立柱建物跡、北側には第15号住居跡と重複関係を持ち、住居跡覆土中に柱穴を検出したことから本建物跡が新しいと判断した。東側には第4号掘立柱建物跡が、北側には第3・11号掘立柱建物跡が存在する。

建物の規模は、2間(4.50m)×3間(6.60m)の側柱建物である。桁間は2.20m、梁間は2.25mである。主

### 第3号掘立柱建物跡 (第98図)

調査区中央58・59-12グリッドに位置する。西側には第11号掘立柱建物跡、第12号住居跡、南側では第7号住居跡、北側では第15号住居跡、西側では第1号溝跡と重複する。第12号住居跡の床面は本建物跡の上に造られ、第7号住居跡のカマドは明らかに本建物跡より新しく、第7・12号住居跡より古いと考えられる。

は2.75mである。主軸方位はN-34°-Wである。

柱穴は、隅丸方形である。東側のP1~P4、P7の土層堆積の観察では柱痕を確認した。いずれの柱痕も地面まで達し、柱掘り方よりも深く打ち込まれていたものと考えられる。

遺物は、土師器環、暗文環を少量検出した。須恵器はP5から第113図9の須恵器盤を検出した。

軸方位はN-4°-Wである。

柱穴は、円形である。東側のP1は土層堆積の観察により明らかに第15号住居跡を切り込んでいた。柱痕は確認できなかった。

遺物は、土師器環、鉢、甕、須恵器環、高台付環などを少量検出した。P3から第113図12の鉄片を検出した。

南側は第2・4号掘立柱建物跡が存在する。

建物の規模は、2間(5.20m)×3間(6.60m)の側柱建物である。桁間は2.20m、梁間は2.60mである。主軸方位はN-15°-Eである。

柱穴は、建物方向に並行した楕円形である。東側のビット列は第1号溝跡によって壊され一部残存してい

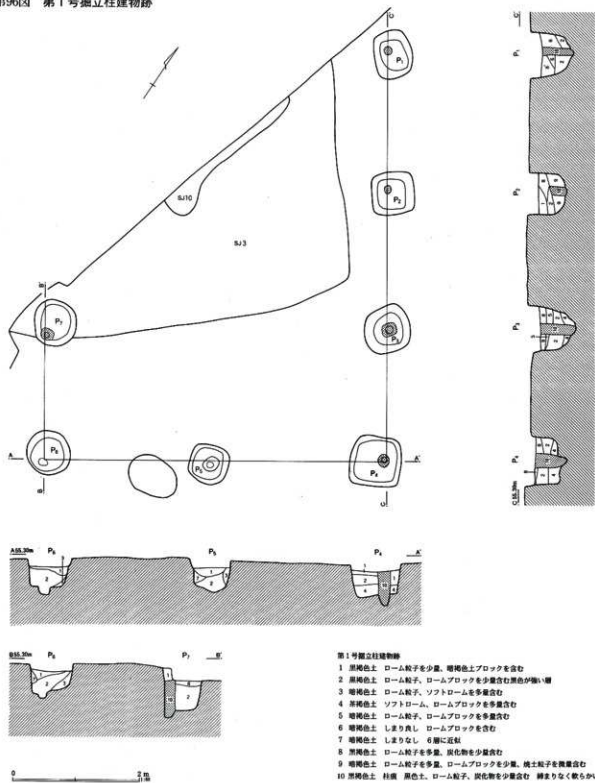
SB 1	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7
径 (cm)	80.0	84.0	84.0	98.0	70.0	72.0	77.0
深さ (cm)	64.5	63.0	66.0	65.5	53.0	57.0	76.5

SB 2	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10
径 (cm)		72.0	80.0	83.0	63.0	58.0	74.0	65.0	54.0	57.0
深さ (cm)		37.5	48.0	51.0	45.2	56.2	43.0	26.0	39.5	46.5

第75表 第1号掘立柱建物跡出土遺物計量表

計量値	器種	土師器							須恵器					鉄・石器			
		環	皿	暗文環	鉢	甕	甌	台付甕	その他	環	蓋	鉢・鉢	高台環		皿・盤	壺	甕
口縁部(片)	1			1										1			
(g)	20			5										45			
体部(片)	5					3											1
(g)	20					50											5
底部(片)														1			
(g)														30			

第96図 第1号掘立柱建物跡

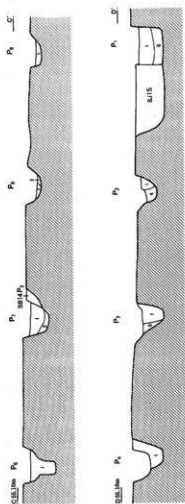
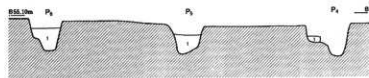
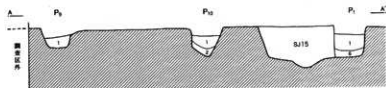
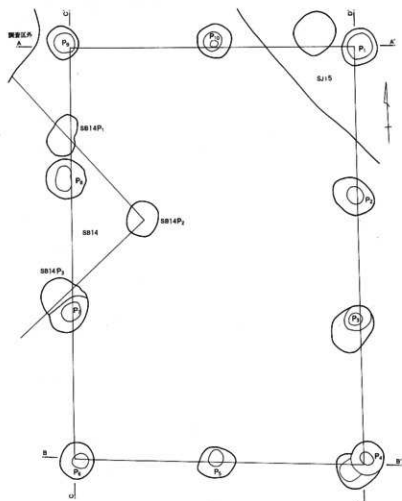


た。P1、P3、P8、P10の土層堆積の観察では柱痕を確認した。

遺物は、土師器環、甕、須恵器環、高台付環、甕な

どを少量検出した。P7から第113図8の末野産高台付環(環B)を検出した。底部回転ヘラケズリの後、高台貼り付け、体部外面に沈線が巡る。

第97図 第2号据立柱建物跡



第2号据立柱建物跡

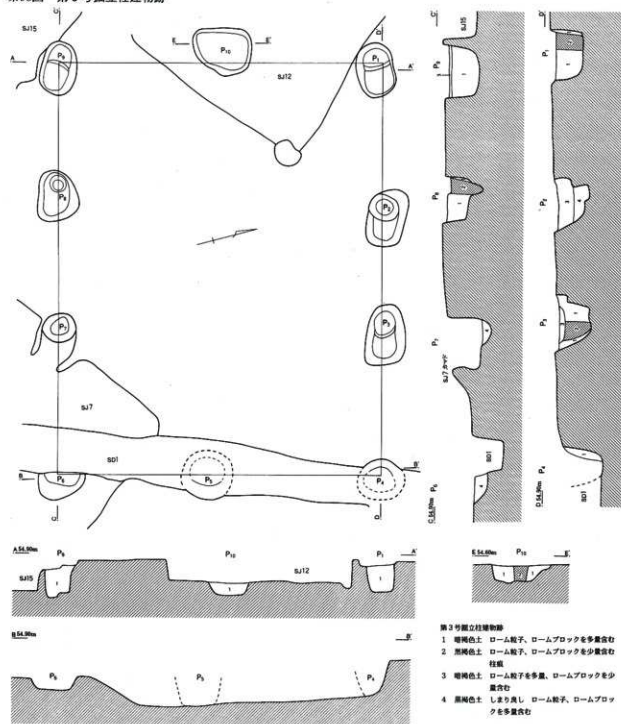
- 1 暗褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック少量、  
深褐色土ブロックを含む
- 2 黒褐色土 ローム粒子、ロームブロックを少量含む
- 3 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多量含む
- 4 黒褐色土 ローム粒子を少量含む
- 5 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを少量含む
- 6 暗褐色土 ローム粒子を多量含む

0 2m

第76表 第2号据立柱建物跡出土遺物計量表

器種	土師器							須恵器					鉄石器		
	坏	皿	暗文坏	鉢	甕	甗	台付甕	その他	坏	蓋	鉢・鉢	高台坏		皿・盤	壺
計量値															
口縁部(片)	3			2											1
(g)	14			12											13
体部(片)					20			2						1	
(g)					85			6						10	
底部(片)					1			1			2				
(g)					50			7			32				

第98図 第3号掘立柱建物跡

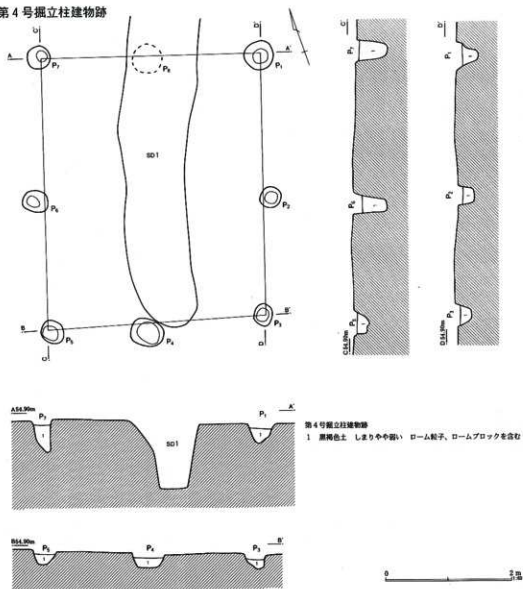


第77表 第3号掘立柱建物跡出土遺物計量表

計量坑	土師器								須恵器					鉄・石器	
	坏	皿	暗文坏	钵	甕	瓶	台付甕	その他	坏	蓋	椀・鉢	高台坏	皿・盤		壶
口縁部(片)	3				2							1			
(g)	3				17							52			
体部(片)	3				16			1						1	
(g)	6				56			16						20	
底部(片)												1			
(g)												50			

SB3	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10
径 (cm)	88.0	97.0	101.0	(74.0)	(83.0)	78.0	56.0	82.0	89.0	100.0
深さ (cm)	61.0	55.0	68.1	51.8	75.0	25.5	75.5	68.5	59.5	31.5

第99図 第4号掘立柱建物跡



第4号掘立柱建物跡

1 黒褐色土、しまりや中堅い、ローム粒子、ロームブロックを含む

0 2m

SB4	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7
径 (cm)	49.0	35.0	36.0	54.0	40.0	42.0	39.0
深さ (cm)	33.5	25.5	20.0	23.5	23.0	54.0	50.5

第78表 第4号掘立柱建物跡出土遺物計量表

器種 計量軌	土師器							須恵器						鉄・石器	
	坏	皿	暗文坏	钵	甕	瓶	台付甕 その他	坏	盖	钵・鉢	高台坏	皿・盤	壺		甕
口縁部(片)					2										
(g)					32										
体部(片)															
(g)															
底部(片)															
(g)															

#### 第4号掘立柱建物跡 (第99図)

調査区中央59・60-12グリッドに位置する。本建物跡の中央部分に第1号溝跡が重複関係する。南側には第4・5・6・17号住居跡が存在する。

建物の規模は、2間(3.50m)×2間(4.30m)の側柱建物である。桁間はP1とP2間が2.30m、P2とP3間が

#### 第5号掘立柱建物跡 (第100図)

調査区中央60-11グリッドに位置する。本建物跡は第13・14号住居跡と重複関係をもち、古いと考えられる。西側の調査区外に伸びる。

建物全体の規模は不明である。検出した遺構は南北方向に2間(5.00m)で柱間は2.50mである。主軸方位はN-2°-Eである。

柱穴は、円形である。第14号住居跡のカマドが本建物跡を壊して造られていた。

遺物は、P2から第113図1の土師器暗文環を検出した。

SB 5	P1	P2	P3
径 (cm)	72.0	88.0	50.0
深さ (cm)	38.5	30.0	53.0

#### 第6号掘立柱建物跡 (第101図)

調査区南側55-13グリッドに位置する。本建物跡は第18号住居跡と重複関係をもつ。覆土中には柱穴は検出されず、第18号住居跡より古いと判断される。

建物の規模は2間(3.80m)×2間(4.00m)の側柱建物である。主軸方位はN-20°-Eである。

柱穴は、円形である。

遺物は、第113図10の秋田産長頸壺を検出した。

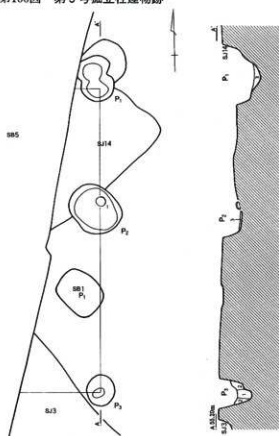
SB 6	P1	P2	P3	P4	P5
径 (cm)	56.0	56.0	59.0	52.0	55.0
深さ (cm)	34.0	30.5	31.5	36.0	46.5

2.00m、梁間はP3とP4間が1.90m、P4とP5間が1.60mで、主軸方位はN-16°-Eである。

柱穴は、円形である。北側のP8は第1号溝跡によって壊されていた。

遺物は、土師器甕の破片を少量検出した。

#### 第100図 第5号掘立柱建物跡



#### 第5号掘立柱建物跡

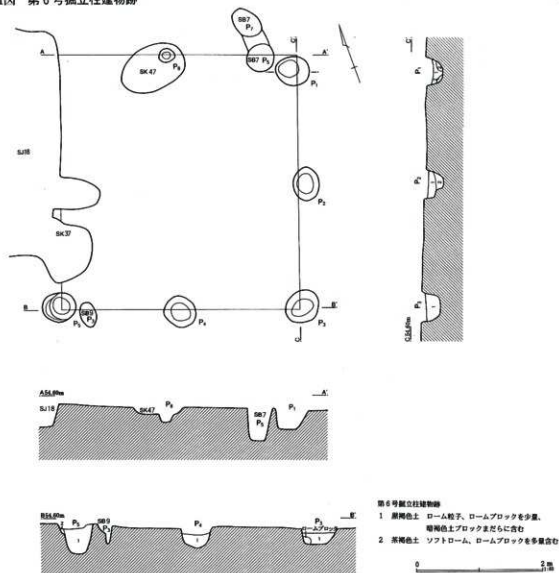
- 黄褐色土 ローーム粒子を少量含む 柱穴
- 黄褐色土 しまり良し、ローーム粒子、ローームブロックを少量含む (3個より多い色相)
- 黄褐色土 しまり良し、2個より大型ローームブロックを少量含む

0 2m

第79表 第5号掘立柱建物跡出土遺物計量表

器種	土師器							須恵器						鉄・石器	
	環	皿	暗文環	鉢	甕	瓶	台付甕	その他	環	蓋	椀・鉢	高台環	皿・盤		壺
計量値			1												
口縁部(片)			206												
(g)															
体部(片)								1							
(g)								16							
底部(片)															
(g)															

第101図 第6号掘立柱建物跡



第80表 第6号掘立柱建物跡出土遺物計量表

器種 計量値	土師器							須恵器					鉄・石器	
	坏	皿	暗文坏	钵	変	甗	台付甗	その他	坏	盖	钵・鉢	皿・盤		壺
口縁部(片)					1								頸部 1	
(g)					29								157	
体部(片)	2		1		1									
(g)	30		5		4									
底部(片)													3	
(g)													99	

## 第7号掘立柱建物跡 (第102図)

調査区南側5-14グリッドに位置する。本建物跡は第18号掘立柱建物跡、第20号住居跡と重複関係を持ち、第18号掘立柱建物跡より新しく、第20号住居跡との新旧関係は不明である。

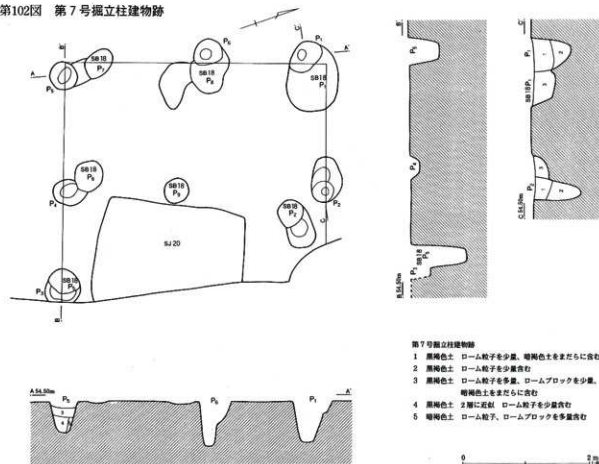
建物全体の規模は不明である。検出された遺構は2間(3.80m)×2間(4.20m)の側柱建物である。主軸方位はN-70°-Wである。

柱穴は、円形である。

遺物は、土師器環、暗文環、鉢、甕、須恵器環、壺、甕などを少量検出した。遺物計量表は第18号掘立柱建物跡出土遺物と区別できず含んでいる。

SB 7	P1	P2	P3	P4	P5	P6
径 (cm)	60.0	74.0	57.0	48.0	46.0	49.0
深さ (cm)	66.0	37.5	33.4	13.0	50.0	73.5

第102図 第7号掘立柱建物跡



第7号掘立柱建物跡

- 1 黒褐色土 ローム粒子を少量、暗褐色土をまだらに含む
- 2 黒褐色土 ローム粒子を少量含む
- 3 黒褐色土 ローム粒子を多量、ロームブロックを少量、暗褐色土をまだらに含む
- 4 黒褐色土 2層に近似、ローム粒子を少量含む
- 5 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多量含む

第81表 第7・18号掘立柱建物跡出土遺物計量表

器種	土師器							須恵器					鉄・石器		
	環	皿	暗文環	鉢	甕	瓶	台付甕	その他	環	蓋	椀・鉢	高台環		皿・盤	壺
口縁部(片)	11		1	1	4				5	1				頸部 1	
(g)	100		44	34	23				26	2				21	
体部(片)	8				19				6						1
(g)	31				72				30						21
底部(片)									2						2
(g)									24						65

第8号掘立柱建物跡 (第103図)

調査区南側54-13グリッドに位置する。本建物跡は第19号住居跡と重複し、住居跡より新しい。

建物規模は、2間 (4.25m) × 3間 (6.30m) の側柱建物である。主軸方位はN-56°-Wである。

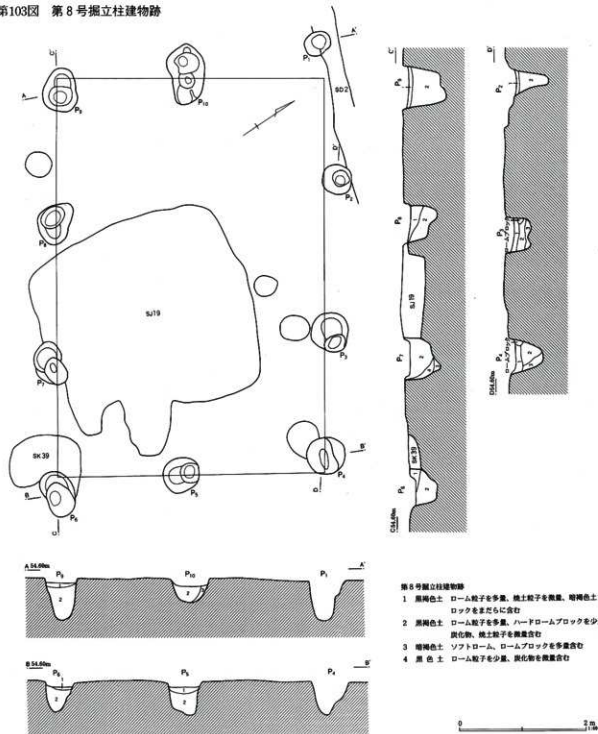
柱穴は、円形である。P7の土層堆積の観察では第19号住居跡を切り込んでいた。

遺物は、P9から第113図4の土師器環、P4から7の須恵器環を検出した。

SB 8	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10
径 (cm)	44.0	50.0	65.0	62.0	60.0	72.0	71.0	73.0	68.0	97.0
深さ (cm)	62.0	63.5	43.5	54.5	53.5	46.6	62.5	52.0	66.0	44.0



第103図 第8号掘立柱建物跡



第82表 第8号掘立柱建物跡出土遺物計量表

器種	土師器						須恵器					鉄石器			
	環	皿	暗文環	鉢	甕	瓶	台付甕	その他	環	蓋	碗・鉢		高台環	皿・盤	壺
計量値															
口縁部(片)	10		1		16		1		1						
(g)	63		5		95		7		41						
体部(片)	6		1		64				1					2	2
(g)	30		7		173				3					111	60
底部(片)									1						
(g)									7						

### 第9号掘立柱建物跡 (第104図)

調査区南側55-13グリッドに位置する。本建物跡の北側には第6号掘立柱建物跡が存在する。

建物規模は、2間 (2.75m) × 2間 (3.65m) の側柱建物である。桁間は1.825m、梁間は北側のP1とP8間とP8とP7間は異なる。主軸方位はN-17°-Wである。

SB 9	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8
径 (cm)	50.0	46.0	42.0		42.0	38.0	23.0	40.0
深さ (cm)	45.0	44.0	32.2		39.0	45.5	15.0	52.0

柱穴は、円形である。P6は断面観察によって第4層が黒褐色土の柱痕である。その両側は第5層のしまりのある黄褐色土である。

遺物は、検出されなかった。

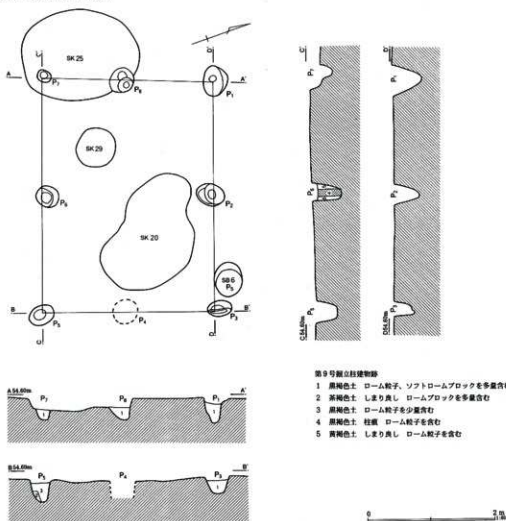
### 第10号掘立柱建物跡 (第105図)

調査区南側56-13グリッドに位置する。本建物跡は第16・21号住居跡と重複する。周辺には柱穴が多く検出された。

建物規模は、2間 (5.64m) × 2間 (4.80m) の側柱建物である。桁間は2.82m、梁間は2.40mとやや距離がある。主軸方位はN-24°-Eである。

SB10	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P8	P9
径 (cm)	71.0	60.0	58.0	80.0	99.0	61.0	49.0	58.0
深さ (cm)	19.6	40.0	48.1	63.4	36.9	28.5	18.2	39.5

第104図 第9号掘立柱建物跡



#### 第9号掘立柱建物跡

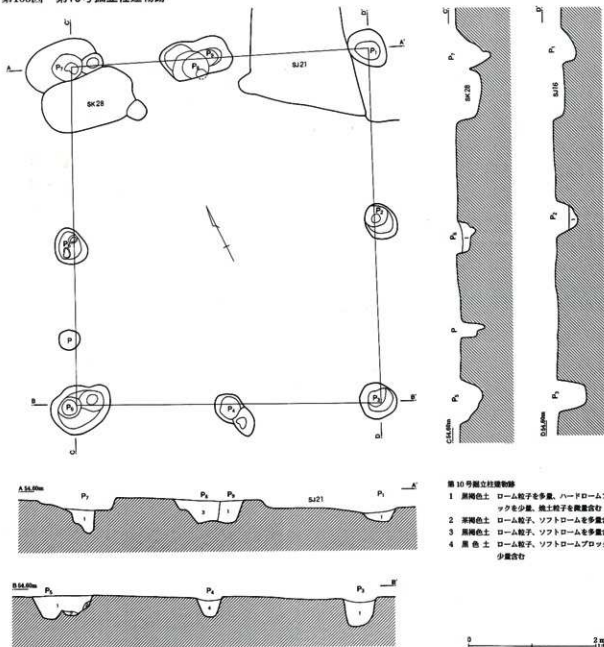
- 1 黒褐色土 ローム粒子、ソフトロームブロックを多量含む
- 2 茶褐色土 しまり良し、ロームブロックを多量含む
- 3 黒褐色土 ローム粒子を少量含む
- 4 黒褐色土 柱痕 ローム粒子を含む
- 5 黄褐色土 しまり良し、ローム粒子を含む

柱穴は、円形である。

出した。蓋は天井が高くつまみは扁平である。ロクロ目が明瞭である。

遺物は、P5から第113図13の須恵器蓋、台付甕を検

第105図 第10号掘立柱建物跡



第10号掘立柱建物跡

- 1 黒褐色土 ローム粒子を少量、ハードロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む
- 2 赤褐色土 ローム粒子、ソフトロームを少量含む
- 3 黒褐色土 ローム粒子、ソフトロームを少量含む
- 4 黒色土 ローム粒子、ソフトロームブロックを少量含む

第83表 第10号掘立柱建物跡出土遺物計量表

器種	土師器						須恵器					鉄・石器			
	坏	皿	暗文坏	鉢	甕	甗	台付甕	その他	坏	蓋	碗・鉢		高台坏	皿・盤	壺
計量値	8								1	2					
口縁部(片)	41							13	181						
体部(片)					27			1		1				2	
(g)					73			1		81				40	
底部(片)							2	3							
(g)							96	75							

第11号掘立柱建物跡 (第106図)

調査区56-13グリッドに位置する。本建物跡は第12号住居跡と重複し新しい。

建物である。主軸方位はN-20°-Eである。

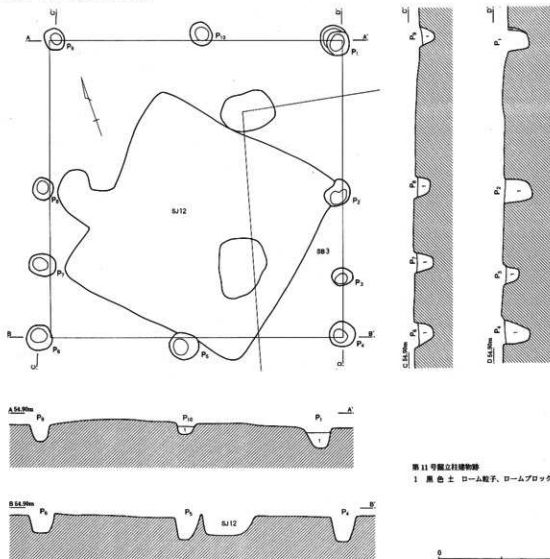
柱穴は、円形である。

建物規模は、2間(4.60m)×3間(4.70m)の側柱

遺物は、検出されなかった。

SB11	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10
径 (cm)	52.0	45.0	34.0	41.0	47.0	41.0	46.0	35.0	36.0	39.0
深さ (cm)	34.0	49.5	28.5	44.5	46.5	32.5	36.5	25.5	26.0	22.0

第106図 第11号掘立柱建物跡



第11号掘立柱建物跡

1 黒色土 ローム砂子、ロームブロックを含む

第84表 第11号掘立柱建物跡出土遺物計量表

器種	土師器						須恵器					鉄・石器			
	坏	皿	暗文坏	鉢	甕	瓶	台付甕	その他	坏	蓋	柄・鉢		高台坏	皿・盤	壺
計量値															
口縁部(片)								1							
(g)								10							
体部(片)															
(g)															
底部(片)															
(g)															

## 第12号掘立柱建物跡 (第107図)

調査区58・57-12グリッドに位置する。本建物跡は中世の土壌群と重複する。周辺には柱穴が多く検出されたが、本建物以外に並びをつかむことができなかった。

建物規模は、2間(4.00m)×2間(5.00m)の側柱建物である。桁間は2.50m、梁間は2.00mである。主軸

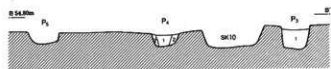
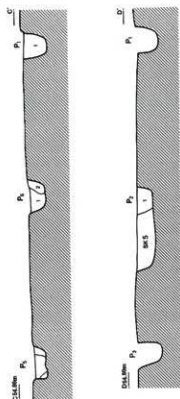
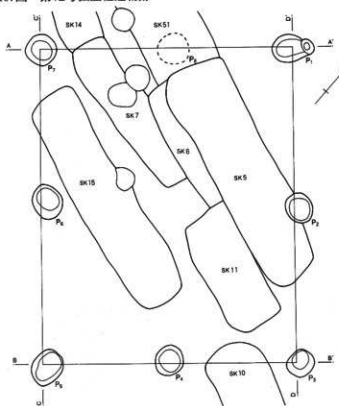
SB12	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7
径 (cm)	67.0	47.0	46.0	50.0	61.0	56.0	51.0
深さ (cm)	60.0	27.5	39.0	22.0	20.0	30.5	45.0

方位はN-41°-Wである。

柱穴は、円形である。第5号土層の覆土を切り込んで建物跡を構築している。柱穴は径40-50cm、深さ15-40cmである。

遺物は、検出されなかった。

第107図 第12号掘立柱建物跡

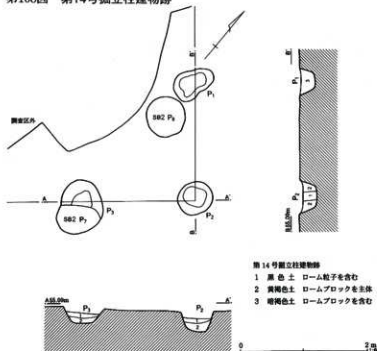


第12号掘立柱建物跡

- 1 黒色土 しまり出し ローム粒子を少量含む
- 2 黄色土 しまり出し ローム粒子、ロームブロックを含む



第108図 第14号掘立柱建物跡



第14号掘立柱建物跡  
1 黄色土 ローム粒子を含む  
2 黄褐色土 ロームブロックを主体  
3 暗黄色土 ロームブロックを含む

第14号掘立柱建物跡 (第108図)

調査区59-12グリッドに位置する。西側は調査区外に伸びる。本建物跡は北側と東側の各1間を検出した。東側には第2号掘立柱建物跡が存在する。

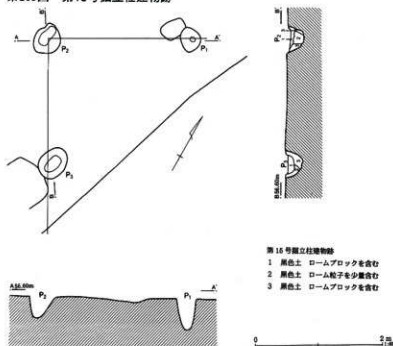
建物規模は不明である。P1とP2間は1.86m、P2とP3間は1.85mでほぼ同じである。主軸方位はN-40°-Wである。

柱穴は、円形である。断面観察によりP2は柱痕を確認した。P3は第2号掘立柱建物跡P7に切られていた。

遺物は、検出されなかった。

SB14	P1	P2	P3
径 (cm)	68.0	56.0	74.0
深さ (cm)	22.0	30.5	32.0

第109図 第15号掘立柱建物跡



第15号掘立柱建物跡  
1 黄色土 ロームブロックを含む  
2 黄色土 ローム粒子を少量含む  
3 黄色土 ロームブロックを含む

第15号掘立柱建物跡 (第109図)

調査区69-10グリッドに位置する。東側は調査区外に伸びる。本建物跡は北側と西側の各1間を検出した。周辺には北側10mの位置に第37号住居跡が存在する。

建物規模は不明である。P1とP2間は2.25m、P2とP3間は2.00mである。主軸方位はN-32°-Wである。

遺物は、土師器環、甕を少量検出した。

SB15	P1	P2	P3
径 (cm)	39.0	50.0	52.0
深さ (cm)	49.4	34.3	28.1

第85表 第15号掘立柱建物跡出土遺物計量表

器種 計量値	土師器						須恵器					鉄・石器				
	環	皿	暗文環	鉢	甕	瓠	台付甕	その他	環	蓋	碗・鉢		高台環	皿・壺	甕	甕
口縁部(片)	3															
(g)	9															
体部(片)	2				2											
(g)	8				9											
底部(片)																
(g)																

## 第16号獨立柱建物跡 (第110図)

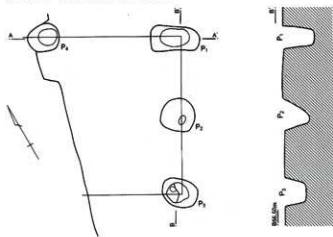
調査区南側の67・68-8・9グリッドに位置する。本建物跡は西側調査区外に伸びる。検出された遺構は北側の1間と東側の2間である。東側は側柱部分と見られる。周辺には遺構の検出は認められず、第37号住居跡が東側5mの位置にある。

建物全体の規模は不明であるが2間×2間の小規模

な側柱建物と推定される。南北方向の梁行は2間(2.50m)で柱間は1.25mである。桁行はP1とP4間で2.50m、2間を推定すると5.00mとなる。主軸方位はN-30°-Eである。

柱穴は、P1が長径80cm、短径35cmの楕円形である。他はいずれも直径50-60cm前後の円形である。

第110図 第16号獨立柱建物跡



第16号獨立柱建物跡

- 1 暗褐色土 ローム粒子を少量含む
- 2 暗褐色土 ロームブロックを含む

0 2.5m

P2は断面の形態は逆円錐形となり、底面が狭い。P4は断面観察により柱痕を確認した。柱痕は第1層としたもので少量のローム粒子を混在する暗褐色土であった。柱痕の両側にはロームブロックを含む第2層の暗褐色土によって埋められていた。

遺物は、土師器製の破片をわずかに検出した。

SB16	P1	P2	P3	P4
径 (cm)	80.0	57.0	60.0	51.0
深さ (cm)	47.2	40.5	63.3	42.3

第86表 第16号獨立柱建物跡出土遺物計量表

器種	土師器							須恵器					鉄石器		
	環	皿	暗文環	鉢	甕	甗	台付甗	その他	環	蓋	碗・鉢	高台環		皿・盤	壺
口縁部(片)				2											
(g)				8											
体部(片)							14								
(g)							105								
底部(片)															
(g)															

## 第17号獨立柱建物跡 (第111図)

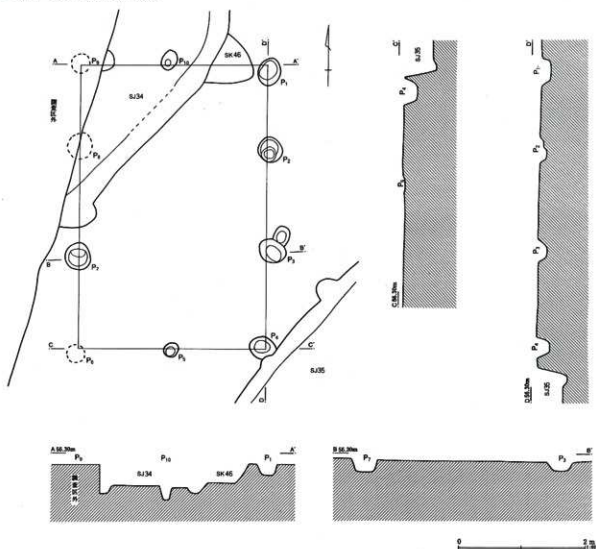
調査区66・67-9グリッドに位置する。北側には第34号住居跡と重複し、北西部分は調査区外に伸びる。

建物の規模は、2間(2.60m)×3間(4.50m)の側柱建物である。桁間は1.50m、梁間は1.30mである。主軸方位はN-2°-Eである。

柱穴は、円形である。地山の掘りこみはいずれも浅い。このため第34号住居跡内に掘りこまれたと考えられる柱穴は確認できなかった。P10の位置関係はほぼ合うが、掘りこみが深い点でやや疑問が残った。

遺物は、検出できなかった。

第111図 第17号掘立柱建物跡



SB17	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9
径 (cm)	46.0	38.0	44.0	44.0	29.0		44.0		32.0
深さ (cm)	17.3	71.0	17.3	21.3	43.0		23.7		19.0

第18号掘立柱建物跡 (第112図)

調査区北側の54・55-13・14グリッドに位置する。本建物跡は第7号掘立柱建物跡と重複し、建て替え遺構と考えられる。本遺構が古くわずかに東側に位置する。東側が調査区外であるためP3、P4は検出できなかったが大きく異なる点は、本建物が調査区の中で唯一の総柱建物跡である。

建物の全体の規模は不明であるが、2間 (3.60m) ×

2間 (3.40m)の総柱建物と推定した。桁間1.80m、梁間1.70mである。主軸方位はN-62°-Wである。

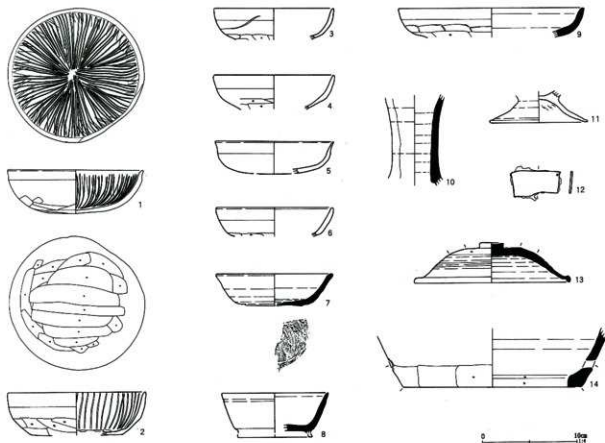
柱穴は、円形である。P1やP8の断面観察により第7号建物跡より本建物跡の土層が切られていることが解る。地山からの掘りこみはいずれも深い、中央のP9は直径も小さく浅い。

遺物は、検出できなかった。





第113図 掘立柱建物跡出土遺物



### 3. 柵列跡

#### 第1号柵列 (第114図)

調査区の中央60・61-11・12グリッドに位置する。本柵列は南東のP1から北西のP7方向に7個の柱穴を検出した。北西側は第14号住居跡と重複する。周辺には住居跡や掘立柱建物跡などが存在するが、本柵列と第1号掘立柱建物跡は並行しほぼ同じ軸方向をもつ。柵列の南東側は調査区外に伸び、南東約6.4mの位置で第

#### 第2号柵列 (第114図)

調査区の北側56・57-12グリッドに位置する。本柵列は南東のP1から北西のP4方向に4個の柱穴を検出した。周辺には柱穴が多数確認されたが、並びが認められた柱穴列はなかった。北側は第10号掘立柱建物跡、

#### 第3号柵列 (第115図)

調査区の中央63・64-10・11グリッドに位置する。本柵列は北東のP1から南西のP13方向に13個の柱穴を検出した。北東約11mの位置で第1号柵列とほぼ直角

3号柵列とほぼ直角に交わる。主軸方位は、N-36°-Wである。

規模は全長13.50mである。各柱穴は、長径32cm~45cm、深さ17.5cm~25cmであった。P5とP6間はやや距離をもち、確認はできなかったが浅い柱穴が存在した可能性が考えられる。

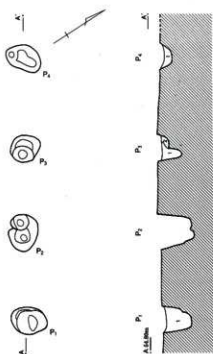
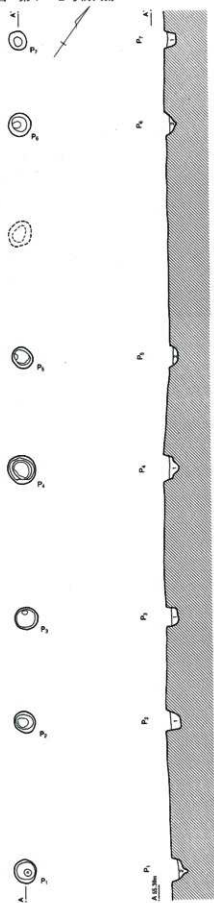
南側には第12号掘立柱建物跡が存在するが建物軸とは異なる。主軸方位は、N-59°-Wである。

規模は全長4.58mである。各柱穴は、長径49cm~61cm、深さ24cm~62cmであった。

に交わる。主軸方位は、N-48°-Eである。

規模は全長22.05mである。各柱穴は、長径33cm~96cm、深さ23.8cm~47.4cmであった。

第114図 第1・2号横列跡



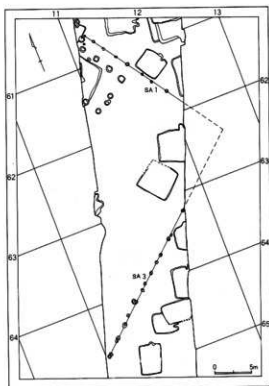
## 第1号横列

- 1 黒褐色土 ローム粒子、ソフトロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む
- 2 黒褐色土 ソフトローム、ハードロームブロックを多量含む

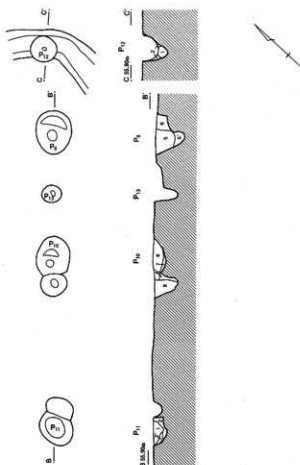
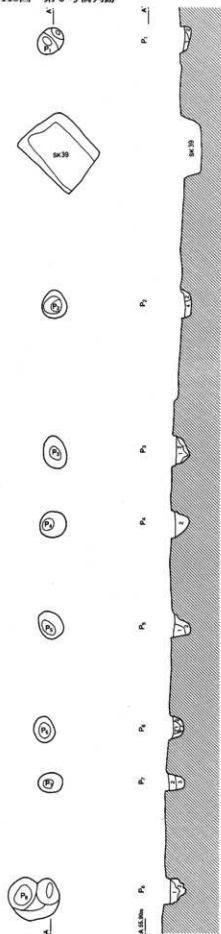
## 第2号横列

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多量含む
- 2 黄 色 土 ロームブロックを主体

0 2m



第115図 第3号欄列跡



第3号欄列

- 1 暗褐色土 ロームブロック、ローム粒子を多量含む
- 1' 黒色土 ローム粒子を少量含む
- 2 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多量含む
- 2' 暗褐色土 ロームブロックを多量含む
- 3 黒色土 ローム粒子を少量含む
- 4 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多量含む
- 5 暗褐色土 ローム粒子を微量含む (柱抜き取り)
- 5' 暗褐色土 ロームブロックを少量含む (柱抜き取り)
- 6 暗褐色土 黒色土ブロック、ロームブロックを多量含む (廻り方)
- 6' 暗褐色土 ローム粒子を多量含む (廻り方)
- 7 黄褐色土 ローム粒子主体 黒色土を含む
- 8 褐色土 柱痕

第3号欄列 Pn12

- 1 褐色土 ローム粒子をやや多量含む
- 2 黒色土 ロームブロックを含む

## 4. 溝跡

### 第1号溝跡 (第116図)

58-13から60-12グリッドに位置する。南北方向に走り、主軸方位はN-22°-Eで南流する。北側は東に直角に向きを変える。規模は、全長21.60m、幅60-

112cm、深さ61~96cmである。断面の形態は箱築研状である。

### 第2号溝跡 (第116図)

54-13から54-14グリッドに位置する。調査区の北端にあたる。東西方向に走り、主軸方位はN-73°-

Wで西流する。規模は、全長15.08m、幅28~58cm、深さ23cmである。断面の形態は逆三角形である。

### 第3号溝跡 (第117図)

54-15グリッドに位置する。調査区の北端にあたる。南北方向に走り、主軸方位はN-13°-Eで北流する。

規模は、全長2.38m、幅62~96cm、深さ20cmである。断面の形態は箱形である。

### 第4号溝跡 (第117図)

61-10から62-11グリッドに位置する。調査区の中央にあたる。東西方向に走り、主軸方位はN-70°-

Wで西流する。規模は、全長9.76m、幅26~38cm、深さ27cmである。断面の形態は箱形である。

### 第5号溝跡 (第117図)

63-10・11グリッドに位置する。調査区の中央にあたる。東西方向に走り、主軸方位はN-72°-Wで西

流する。規模は、全長5.56m、幅33~48cm、深さ59cmである。断面の形態は逆台形である。

### 第6号溝跡 (第116図)

71-8から72-8グリッドに位置する。調査区の南端にあたる。南北方向に走り、主軸方位はN-13°-Eで南流する。規模は、全長14.64m、幅24~64cm、深

さ49cmである。断面の形態は逆台形である。北側で第8号溝跡を切り込む。

### 第7号溝跡 (第117図)

72-8グリッドに位置する。調査区の南端にあたる。南北方向に走り、主軸方位はN-19°-Eで南流する。

規模は、全長5.24m、幅28~60cm、深さ9cmである。断面の形態は逆台形である。

### 第8号溝跡 (第118・119図)

70-8から71-9グリッドに位置する。東西方向に走り、主軸方位はN-69°-Wで西流する。規模は、

全長12.42m、幅28~118cm、深さ15cmである。断面の形態は逆台形である。溝跡としたが、東側の部分には硬化面を検出した。道路状遺構の可能性が考えられる。

全長12.42m、幅28~118cm、深さ15cmである。断面の形

### 第9A号溝跡 (第118・119図)

70-8から70-9グリッドに位置する。東西方向に走り、主軸方位はN-68°-Wで西流する。規模は、

全長12.38m、幅320~370cm、深さ75cmである。断面の形態は逆台形である。

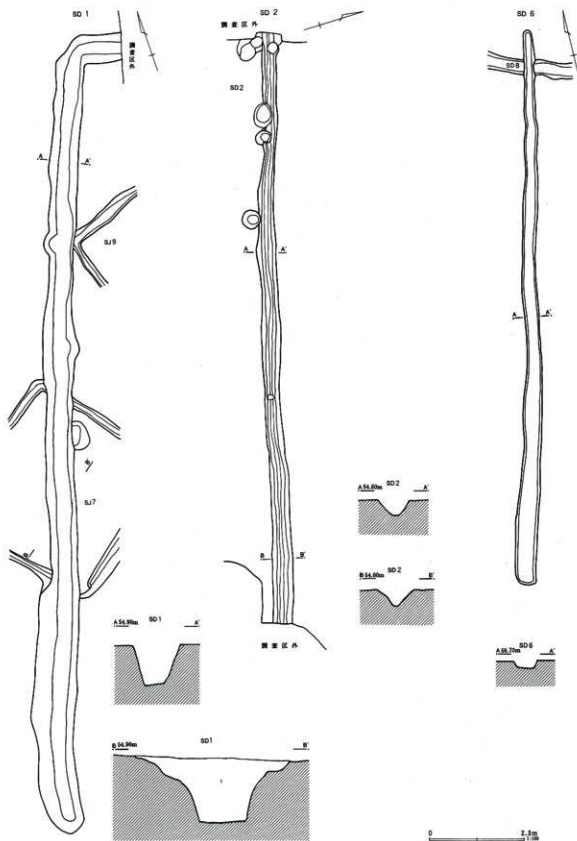
全長12.38m、幅320~370cm、深さ75cmである。断面の形態は逆台形である。

### 第9B号溝跡 (第118・119図)

70-8から70-9グリッドに位置する。東西方向に走り、主軸方位はN-68°-Wで西流する。規模は、

全長9.85m、幅84~136cm、深さ26cmである。断面の形態は逆台形である。東端は浅くなり途切れる。

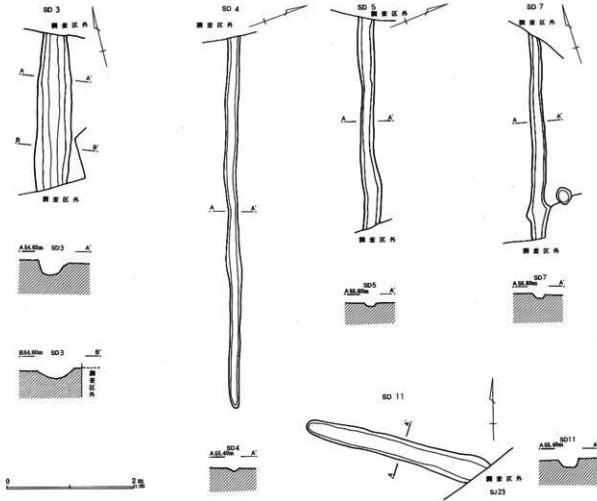
第116图 第1·2·6号溝跡



第1号溝跡  
1 黒色土 □—△砂子土含む



第117図 第3・4・5・7・11号溝跡



第10号溝跡 (第118・119図)

69-8から70-9グリッドに位置する。東西方向に走り、主軸方位はN-67°-Wで西流する。規模は、

第11号溝跡 (第117図)

62-11グリッドに位置する。東西方向に走り、主軸方位はN-78°-Eで西流する。規模は、全長2.88m、

第12号溝跡 (第118・119・120図)

64-10から70-8グリッドに位置する。南北方向に走り、北側では西に直角に向きを変える。主軸方位は

第13号溝跡 (第120図)

68-9グリッドに位置する。南北方向に走り、北側は第12号溝跡から分岐していた。主軸方位はN-11°-

第14号溝跡 (第120図)

68-9グリッドに位置する。南北方向に走り、北側は第12号溝跡から分岐していた。主軸方位はN-18°-

全長12.10m、幅60-86cm、深さ27cmである。断面の形態は箱形である。

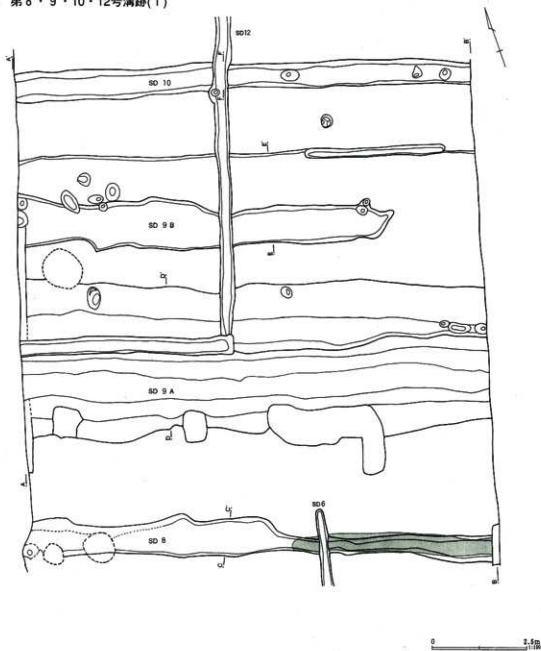
幅34cm、深さ10cmである。断面の形態は逆台形である。

N-19°-Eで西流する。規模は、全長60m、幅35-65cm、深さ45cmである。断面の形態は箱形である。

Eで西流する。規模は、全長0.52m、幅40cm、深さ18cmである。断面の形態は箱形である。

Eで西流する。規模は、全長10.06m、幅40cm、深さ10cmである。断面の形態は逆台形である。

第118図 第8・9・10・12号溝跡(1)



第15号溝跡 (第120図)

64-10から68-9グリッドに位置する。南北方向に走り、北側は第17号溝跡と交わる。主軸方位はN-

第16号溝跡 (第120図)

65-10グリッドに位置する。東西方向に走り、西側は調査区域外に伸びる。東側は溝先端部に当たり終息する。主軸方位はN-76°-Eで西流する。規模は、

第17号溝跡 (第120図)

64-10グリッドに位置する。東西方向に走り、東側は第15号溝跡と交わる。主軸方位はN-70°-Wで東

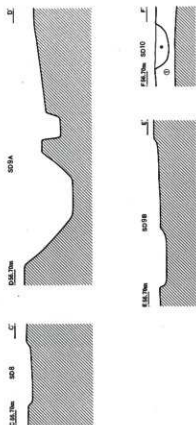
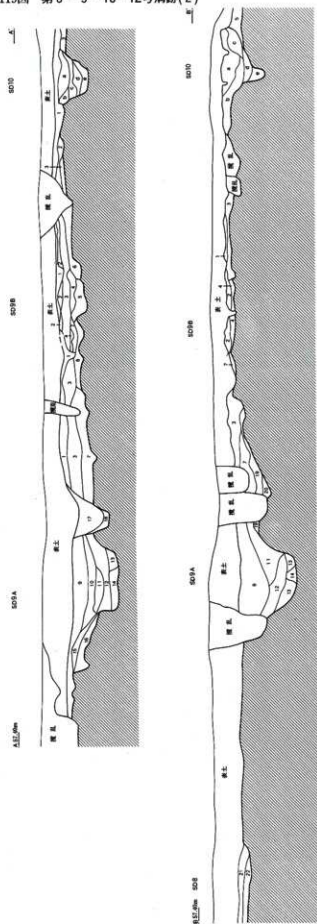
21°-Eで南流する。規模は、全長61.60m、幅38cm、深さ20cmである。断面の形態は逆台形である。

全長1.80m、幅40cm、深さ14cmである。断面の形態は箱形である。

流する。規模は、全長0.78m、幅37cm、深さ20cmである。断面の形態は箱形である。



第119図 第8・9・10・12号清跡(2)



第6・9号清跡

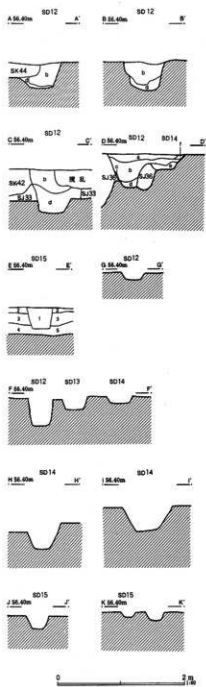
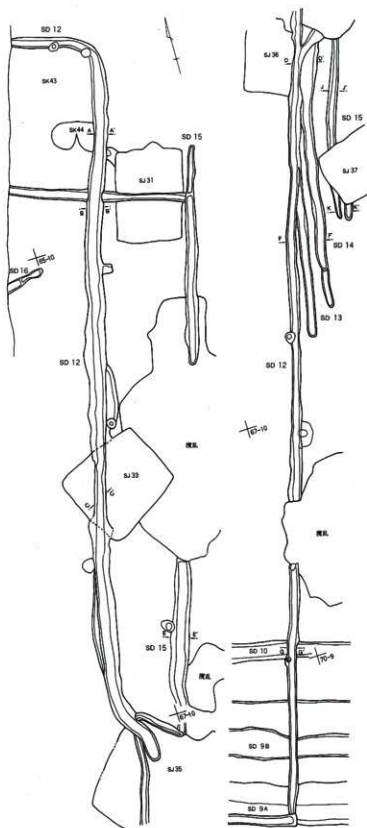
- 1 暗灰褐色土 火山灰(洗層A)を少量含む
- 2 灰 色 土 しまり層 火山灰(洗層A)、鉄分を含む(凝結層)
- 3 暗褐色土 しまり層 火山灰(洗層A)、鉄分を含む(凝結層)
- 4 黒 色 土 しまり層 ロームブロックを少量含む
- 5 黄褐色土 ロームブロックの埋め戻し土 黒色土を少量含む
- 6 褐色土 ロームブロックを少量含む
- 7 褐色土 4層に近接 褐色土ブロックを含む
- 8 明褐色土 しまり真し 灰色粘土、ローム粒子を含む
- 9 暗灰褐色土 ローム粒子を少量含む 洗層Aを含む
- 10 暗褐色土 ローム粒子を少量含む
- 11 黒褐色土 ローム粒子を含む
- 12 黒 色 土 ローム粒子を今や少量含む
- 13 暗褐色土 しまり層 ロームブロックを含む
- 14 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む
- 15 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを含む
- 16 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多量に含む
- 17 灰褐色土 しまり層 火山灰(洗層A)を少量含む
- 18 黒 色 土 しまり真し、ローム粒子を少量含む
- 19 灰色粘質土 ロームブロックが埋り尽くされる
- 20 暗褐色土 凝結層 凝結には酸化層(鉄分凝集層)が形成される
- 21 灰 色 土 凝結硬化層
- 22 灰 色 土 凝結硬化層 ロームブロック残存 凝結には非常に固くしる

第10号清跡

- a 暗灰褐色土 火山灰を少量含む
- b 暗灰褐色土 火山灰、ローム粒子を少量含む
- c 黒 色 土 しまり真し 火山灰、ロームブロックを含む
- d 暗褐色土 しまり真し ロームブロック、黒色土ブロックを含む
- e 黒 色 土 ロームブロックを含む

第12号清跡 F-D'

- ① 黒 色 土 ローム粒子、ロームブロックを少量含む



第12・14号溝跡

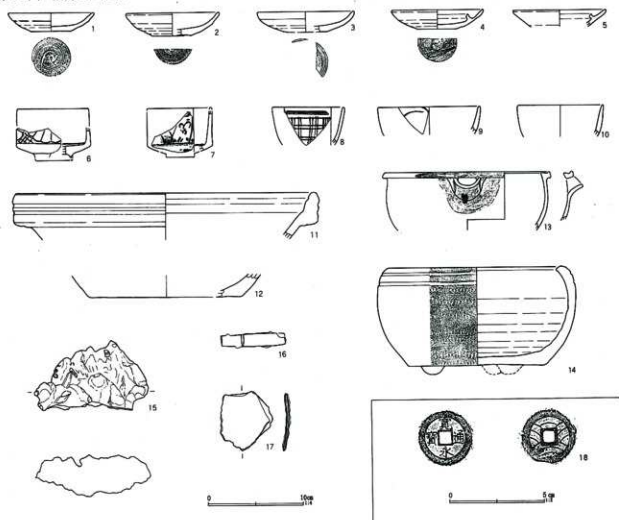
- a 暗褐色土 ローム粒子を多量含む
- b 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子を少量含む
- c 暗褐色土 ローム粒子多量、焼土粒子を少量含む
- d 暗褐色土 ローム粒子多量、焼土粒子を少量含む
- e 暗褐色土 ローム粒子多量、焼土粒子を少量含む
- f 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多量含む

第15号溝跡

- 1 灰褐色土 ロームブロックを少量、火山灰(浅間A)を含む
- 2 暗褐色土 ロームブロック、ローム粒子を少量含む
- 3 暗褐色土 ロームブロックをやや多量含む
- 4 褐色土 ローム粒子をやや多量含む
- 5 暗褐色土 ロームブロックをやや多量含む



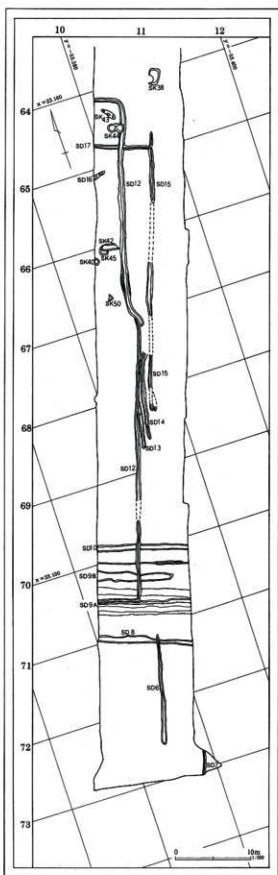
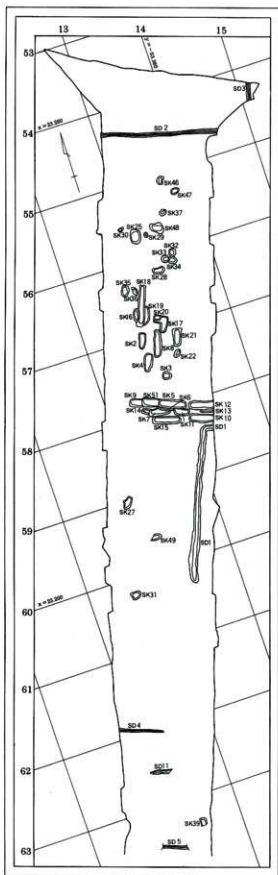
第121図 溝跡出土遺物



第88表 溝跡出土遺物観察表 (第121図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	陶器 灯明皿	9.0	1.9	4.2		普通	茶褐色	50	SD-9(A)	瀬戸鉄軸
2	陶器 灯明皿	(10.0)	2.4	4.2		普通	茶褐色	40	SD-9	瀬戸鉄軸
3	陶器 灯明皿	(10.2)	2.2	(4.5)		普通	茶褐色	40	SD-9	瀬戸鉄軸
4	陶器 灯明皿	(9.8)	2.0	4.1		良好	茶褐色	40	SD-9	瀬戸鉄軸
5	陶器 灯明皿	(9.8)	(1.7)			普通	茶褐色	20	SD-9(A)	瀬戸鉄軸
6	磁器 碗		(3.1)			良好	淡白色	10	SD-9(A)	
7	磁器 碗		(4.2)			良好	淡白色	10	SD-9(A)	
8	磁器 碗	7.4	(4.0)			良好	淡白色	10	SD-9	
9	磁器 碗	(10.7)	(2.9)			良好	淡白色	5	SD-9(A)	
10	青磁 碗	(9.0)	(3.3)			良好	淡緑色	10	SD-9	
11	すり鉢	(31.9)	(4.9)			普通	赤褐色	10	SD-9	瀬戸
12	すり鉢		(2.4)	(16.0)	A C D F	普通	赤褐色	5	SD-9(A)	瀬戸
13	片口鉢	(17.5)	(6.2)			普通	茶色	20	SD-9	瀬戸
14	陶器 三足火鉢	(18.0)	11.3	14.2	A D F	不良	黒褐色	40	SD-9(A)	脚部貼付
15	碗型滓	残存長 7.0, 幅 12.0, 厚さ 4.3cm, 重量 349.8g							SD-9	
16	鉄製刀子	残存長 6.8, 幅 1.3, 厚さ 0.25cm, 重量 19.0g							SD-9(A)	
17	鉄片	残存長 6.0, 幅 5.5, 厚さ 0.3cm, 重量 15.7g							SD-9	
18	寛永通宝	銭径 2.84, 穿径 0.64cm, 重量 4.5g						100		

第122図 清跡・土堀全体図



## 5. 土 壤

本調査区からは、46基の土壌を検出した。第123図から第126図に掲載した。いずれも、中・近世の遺構と見られる。土壌墓の可能性が考えられる。調査区域内での検出位置は、全体に広がるが、特に、北側を中心に土壌群が存在する。土壌の形態は、隅丸方形5基、正方形2基、長方形23基、不整形16基である。

調査北側では、形態と分布にまとまりをもつ。調査区北側の55-13グリッドを中心とした位置では不整形の土壌が集中する。この南側には長方形の土壌群が見られるが、調査区中央付近で検出された土壌は大きなまとまりをもたず、不整形の形態が多い。

長方形とした土壌には、長軸方向のまとまりからさらに大別される。このような傾向は新田遺跡B区においても認められる。

まず、長軸方向を真北より東に $1^{\circ}$ ~ $27^{\circ}$ の範囲の軸方向を取るものである。該当する土壌は第2、4、8、16、17、18、19、21、38、39号である。56・57-12・13グリッドを中心に検出された。規模は第18号が最も長軸が長く542cm、幅80cm、深さ39cmである。これと重複関係をもって東側に第19号土壌、西側に小型の第16号土壌が位置する。第16号の規模は長軸155cm、幅60cm、深さ4cmであった。

長方形でも、これらとほぼ直行する軸方向の真北から西に $53^{\circ}$ ~ $69^{\circ}$ の範囲を取るものである。該当する土壌は第5~7、9、10~15、20、42、51号である。57・58-12・13グリッドを中心に検出された。狭い範囲にほとんど長軸方向を同じにして重複する。

規模は長軸196cm~376cm、幅54cm~109cm、深さ7cm~48cmである。

長方形の土壌は覆土にいずれも共通点があり、断面観察を行った第2、3、5~7、12、13、18~19、21号ではローム粒子やロームブロックを多量に含み人為的な埋め戻しが行われていたことが窺える。土壌の性格としては、等身大のおおきさであることから伸展葬による埋納形態が行われていたものと推定される。

隅丸方形の土壌は、第22、27、28、32、35号である。

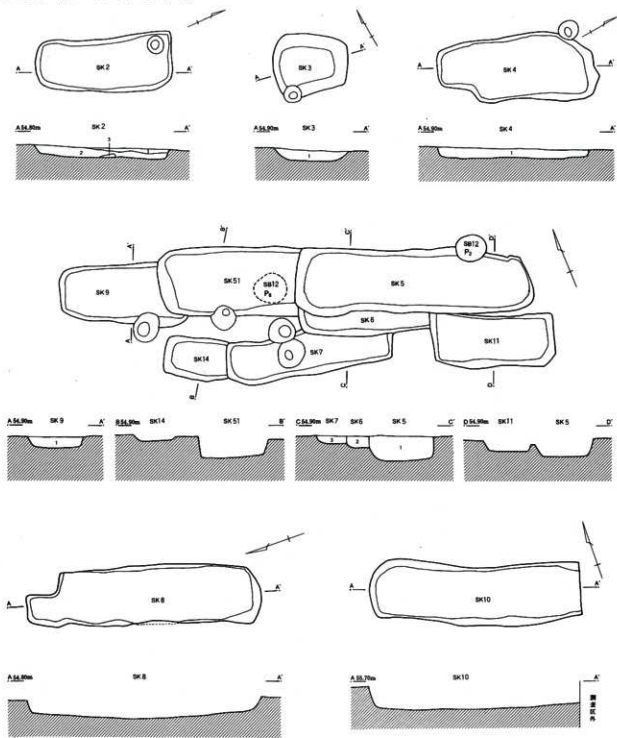
検出された位置は、長方形の形態よりやや北側に位置し56-12・13グリッドを中心に分布する。規模は長軸112cm~182cm、幅66cm~95cm、深さ14cm~60cmである。長方形の形態のものに比べやや短い。幅や深さは様々であることから一概に比較できない。断面観察から、第22、27、28号土壌の覆土は長方形とした土壌の覆土に近似し、ローム粒子やロームブロックを多量に含み人為的な埋め戻しが行われていたことが窺える。一方、第32、35号土壌の大きく異なる点は、覆土に黒色土が堆積し、炭化粒子を含む、下層には炭化層が見られ骨片が炭化層の上に検出され、土壌の底面には径20~30cm程の砂岩が並べてあることである。このことは、火葬墓であると共に、石は棺などの土台にした可能性が考えられる。

正方形の土壌は、第3、45号である。第3号は57-12グリッド、第45号は66-9グリッドと離れた位置である。遺構の性格は不明であるが土壌と考えられる。

不整形の土壌は、調査区の全体に展開する。特に、先の隅丸方形や長方形の形態をもつ土壌群の北側にまとまりが認められる。55・56-12・13グリッドに位置する土壌は、29、30、33、34、36、37、46、47、48の10基である。規模は長軸74cm~118cm、幅51cm~92cm、深さ21cm~36cmである。断面観察によると覆土は、長方形とした土壌の覆土に近似し、ローム粒子やロームブロックを多量に含み人為的な埋め戻しが行われていたことが窺える。このほか、31、40、43、44、49、50が調査区中央付近に散在する。断面観察によると第40、43、44号土壌の覆土には灰褐色土に浅間A軽石の火山灰が少量含まれ近世の土壌である。

遺物は、土師器や須恵器を検出したが混入と考えられる。第127図に図示した6~9は第37号土壌からまとまって未野産須恵器を検出した。古代の土壌と考えられる。7はロクロ目の細かい坏である。8、9は大型の鉢である。体部の張りや口縁部形態が異なる。

第123図 第2～11・14・51号土壌



第2号土壌

- 1 原褐色土 ローム粒子を多量、暗褐色土をまだらに含む
- 2 原褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多量含む
- 3 原褐色土 黒色土を帯状に含む

第3号土壌

- 1 原褐色土 ローム粒子を少量、暗茶褐色土をまだらに含む

第4号土壌

- 1 原褐色土 ローム粒子を多量、ソフトロームブロックを含む

第5・6・7号土壌

- 1 原褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多量含む
- 2 原褐色土 ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む
- 3 原褐色土 2層に近接

第8号土壌

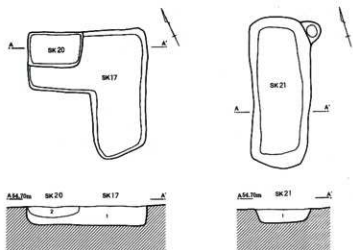
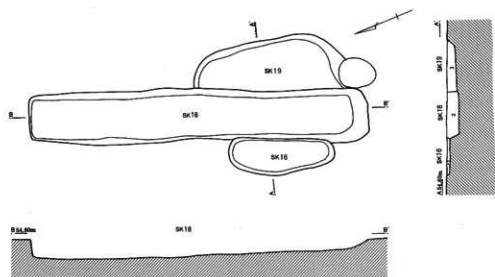
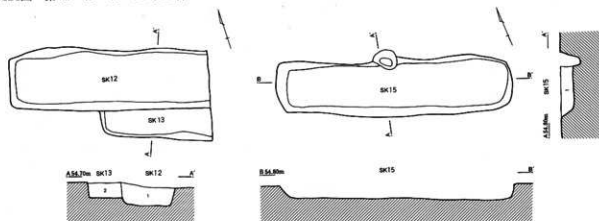
- 1 原褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多量含む

第9号土壌

- 1 原褐色土 ローム粒子多量、暗茶褐色土をまだらに含む

0 2m

第124図 第12~13・15~21号土壇



第 12・13 号土壇

- 1 黒褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多量含む
- 2 黒褐色土 ロームブロックを多量含む

第 15 号土壇

- 1 黒褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多量含む

第 16・18・19 号土壇

- 1 黒褐色土 ローム粒子を多量、暗褐色土をまだらに含む
- 2 黒褐色土 ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む
- 3 黒褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多量含む

第 17・20 号土壇

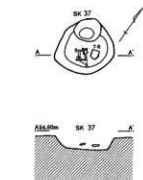
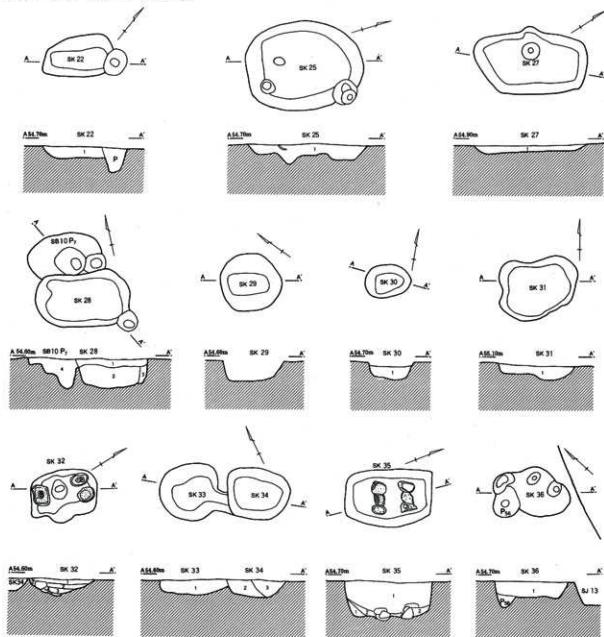
- 1 黒褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多量含む
- 2 黒褐色土 ローム粒子を少量含む

第 21 号土壇

- 1 黒褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多量含む

0 2m

第125図 第22・25・27号土壇



第22号土壇

1 黒褐色土 ローム粒子を少量、暗茶褐色土をまだらに含む

第25号土壇

1 黒褐色土 ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む

第27号土壇

1 黒褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多量含む

第28号土壇

1 暗褐色土 ローム粒子を少量含む

2 黒褐色土 ローム粒子を多量、ロームブロックを含む

3 黒褐色土 ローム粒子を多量に含む

4 黒褐色土 ローム粒子を多量に含む

第30号土壇

1 黒色土 炭化粒子を含む

第31号土壇

1 黒褐色土 ローム粒子、ロームブロックを少量含む

第32号土壇

1 明褐色土 しまり直し、ローム粒子を含む

2 黒色土 しまり直し、炭化粒子を含む

3 黒色土 炭化層(土層から人骨検出)

4 明褐色土 炭化粒子を多量、ローム粒子を含む

第33・34号土壇

1 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子を含む

2 暗褐色土 ローム粒子を多量含む

3 暗褐色土 ローム粒子を含む

第35号土壇

1 黒褐色土 ロームブロックを多量含む

2 黒色土 しまり直し、炭化粒子を主体

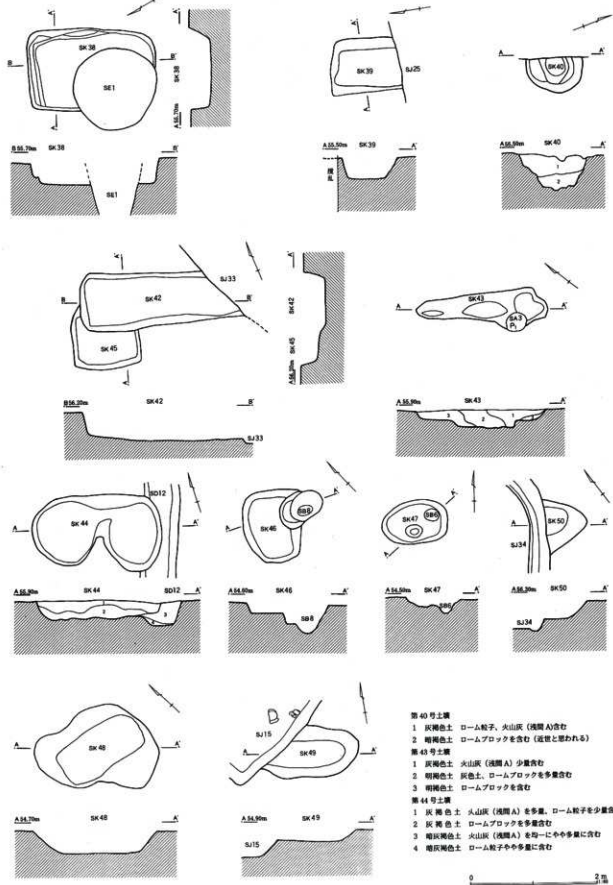
第36号土壇

1 黒褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多量含む

0 2.0m



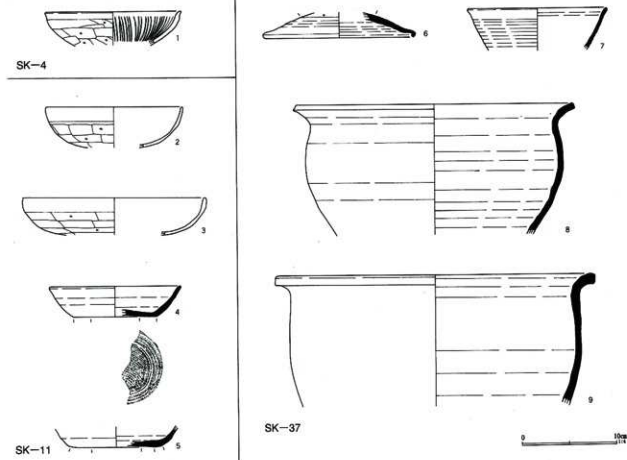
第126図 第38~40・42~50号土壇



第89表 土壌一覽表

番号	位 置	形 態	長徑 (m)	短徑 (m)	深さ (m)	主軸方位	備 考
1	欠						
2	56-12 57-12	長方形	2.19	0.81	0.25	N-26°-E	
3	57-12	正方形	1.2	0.95	0.17	N-77°-W	
4	57-12	長方形	2.58	1.02	0.22	N-17°-E	
5	57-12・13 58-12・13	長方形	3.79	0.99	0.35	N-58°-W	
6	57-12 58-12	長方形	(2.08)	(0.4)	0.20	N-58°-W	
7	57-12 58-12	長方形	2.65	0.65	0.08	N-62°-W	
8	56-12・13 57-12・13	長方形	3.75	0.92	1.80	N-17°-E	
9	57-12	長方形	2.04	0.93	0.20	N-62°-E	
10	58-13	長方形	(3.36)	0.93	0.34	N-60°-W	
11	58-12	長方形	1.96	0.78	0.16	N-55°-W	
12	57-13 58-13	長方形	(3.17)	1.00	0.47	N-65°-W	
13	58-13	長方形	(1.74)	(0.58)	0.25	N-60°-W	
14	57-12	長方形	(1.02)	0.68	0.07	N-53°-W	
15	58-12	長方形	3.76	0.83	0.33	N-62°-W	
16	56-12	長方形	1.55	(0.60)	0.04	N-23°-E	
17	56-13 57-13	長方形	2.02	0.86	0.35	N-27°-E	
18	56-12	長方形	5.42	0.80	0.39	N-21°-E	
19	56-12	長方形	2.63	(0.88)	0.14	N-14°-E	
20	56-12 57-13	長方形	0.87	0.54	0.10	N-55°-W	
21	57-13	長方形	2.40	0.92	0.24	N-14°-E	
22	57-13	長方形	1.18	0.66	0.14	N-49°-E	
23	欠						
24	欠						
25	55-13	槽円形	1.90	1.44	0.26	N-18°-E	
26	欠						
27	58-1 59-12	長方形	1.82	0.95	0.27	N-29°-E	
28	56-13	隅丸方形	1.53	0.84	0.24	N-80°-W	
29	55-13	円形	0.99	0.92	0.33	N-36°-W	
30	55-12	円形	0.74	0.51	0.27	N-82°-E	
31	60-11	不整形	1.34	0.84	0.30	N-63°-E	
32	56-13	長方形	1.12	0.74	0.23	N-32°-E	
33	56-13	円形	1.00	0.92	0.27	N-81°-W	
34	56-13	隅丸方形	1.02	0.73	0.21	N-32°-E	
35	56-12	長方形	1.45	0.90	0.60	N-20°-E	
36	56-12	不整形	1.18	0.60	0.25	N-37°-W	
37	55-13	円形	0.97	0.82	0.24	N-82°-E	
38	64-10・11 65-10・11	長方形	2.08	0.13	0.41	N-27°-E	
39	64-11	長方形	(1.14)	0.84	0.31	N-1°-E	
40	66-9	円形	0.90	(0.50)	0.46	N-24°-E	
41	欠						
42	66-9	長方形	(2.50)	0.80	0.48	N-69°-W	
43	65-10	不整形	2.10	0.32	0.36	N-46°-W	
44	65-10	円形	(1.80)	1.04	0.32	N-76°-W	
45	66-9	正方形	1.06	(0.62)	0.25	N-72°-W	
46	55-13	方形	1.13	0.74	0.22	N-35°-E	
47	55-13	槽円形	1.08	0.70	0.23	N-85°-E	
48	55-13	不整形	2.02	0.90	0.36	N-45°-W	
49	59-12	不整形	(1.57)	0.80	0.25	N-70°-W	
50	66-9	不整形	(0.64)	0.86	0.29	N-55°-W	
51	57-12	長方形	(2.20)	1.09	0.28	N-59°-W	

第127図 土壇出土遺物



第90表 土壇出土遺物観察表 (第127図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考	
1	土師器環	(14.5)	(3.6)		A B C D E F	良好	橙褐色	20	SK-4	放射状暗文	
2	土師器環	(14.5)	(4.3)		A B C D E F	普通	橙褐色	50	SK-11		
3	土師器環	(19.2)	(3.9)		A B C D E F	普通	橙褐色	20	SK-11覆土		
4	須恵器環	(14.0)	(3.2)	(8.8)	A D 針	良好	灰色	30	SK-11覆土 南比企産 静止来切り後外周回転?		
5	須恵器環		(2.2)	(9.8)	C F 片	普通	褐灰色	20	SK-11覆土		
6	須恵器蓋	(15.6)	(2.6)		A C D F 片	普通	灰色	40	SK-37No.2		未野産
7	須恵器環	(14.6)	(4.4)		A C D F 片	普通	灰色	20	SK-37No.1		未野産
8	須恵器鉢	(29.3)	(13.7)		A C D F 片	普通	褐灰色	30	SK-37No.1		未野産
9	須恵器鉢	(33.7)	(13.8)		A C D F 片	普通	黒灰色	30	SK-37No.3		未野産

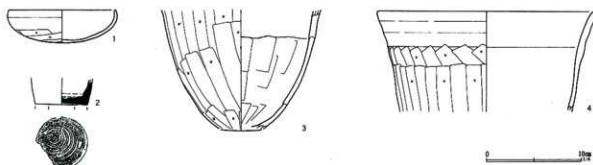
## 6. 柱穴

調査区域内では、掘立柱建物跡や欄列としてとらえられた柱穴以外に、多数の柱穴を検出した。柱穴には明らかに柱痕を残すものも見られたが、柱列や建物跡としての組み合わせが不明瞭なものも存在し、単独の柱穴として調査した。時期は、土師器や須恵器を出土する奈良・平安時代の遺構や中世・近世の遺構など様々である。柱穴は他の遺構同様北側部分および中央

部分に集中してみられ、南側は散在する。

遺物は、土師器環、鉢、甕、須恵器環、壺、甕などの破片を検出した。P66からは土師器環を検出した。丸底の典型的な北武蔵型環である。P30からは南比企産の長頸壺の底部を検出した。底部外面は糸切り痕が残る。69-9グリッドP3からは土師器甕の底部破片と鉢の口縁部破片を検出した。

第128図 柱穴出土遺物



第91表 柱穴出土遺物観察表 (第127図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	土師器杯	(11.3)	3.5		AB C D F	普通	褐色	40	P-66覆土	南比金産
2	須恵器長頸壺		(2.8)	5.6	A C F 針	良好	淡灰色	60	P-30	
3	土師器甕		(12.5)	(4.6)	A B C F	普通	褐色	30	69-9G P3	
4	土師器瓶	(22.8)			A B D F	普通	褐色	5	69-9G P3	

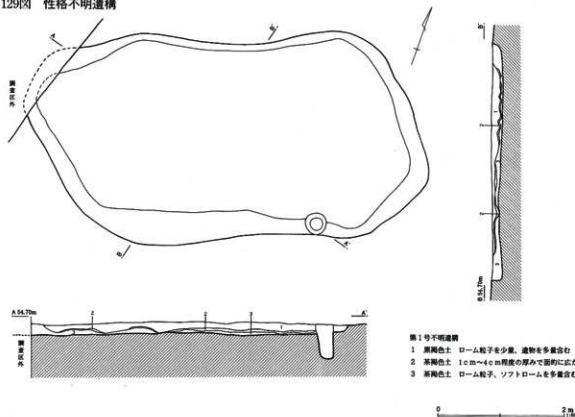
## 7. 不明遺構

調査区北側の55-12・13グリッドに位置する。規模は長軸6.45m、短軸3.34m、深さ7cmである。主軸方位はN-70°-Wである。断面観察により上層の第1層中からは多量の土器を含む黒褐色土、第2層は1~4

cmの厚さの茶褐色土が面的に広がりをもち貼り床面の様相である。第3層は掘り方でロームを多く含む。

遺物は、土師器杯、暗文杯、皿、鉢、壺、甕、須恵器杯、鉢、壺、甕の破片を検出した。第130図1~3、

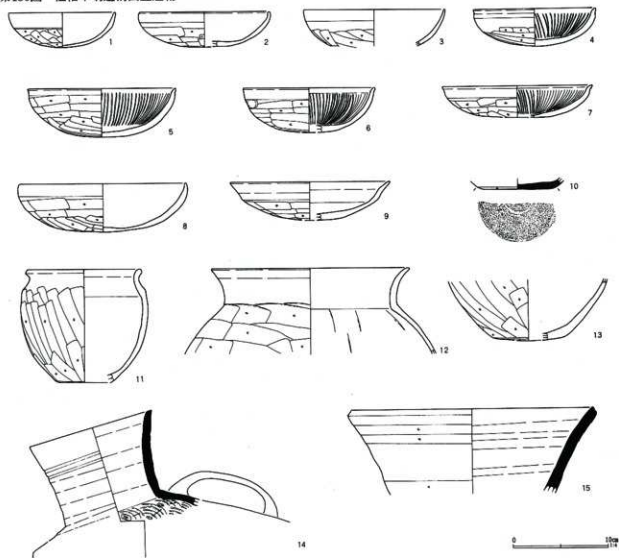
第129図 性格不明遺構



第1号不明遺構

- 1 黒褐色土：ローム粒子を少量、遺物を多量含む
- 2 茶褐色土：10cm~4cm程度の厚みで面的に広がる
- 3 黒褐色土：ローム粒子、ソフトロームを多量含む

第130図 性格不明遺構出土遺物



第92表 性格不明遺構出土遺物観察表 (第130図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	土師器坏	(11.4)	3.6		A B D F	普通	黄褐色	25	一括	
2	土師器坏	(13.8)	(3.5)		A D	不良	赤褐色	25	覆土	
3	土師器坏	(14.8)	(3.8)		A C D F	普通	茶褐色	15	一括	
4	土師器坏	12.9	3.4		A D	不良	赤褐色	75		放射状暗文
5	土師器坏	(15.8)	5.1		A D	良好	赤褐色	70	一括	放射状暗文
6	土師器坏	(14.0)	(4.5)		A D	良好	橙褐色	25	一括	放射状暗文
7	土師器坏	(15.7)	(3.4)		A D	普通	暗褐色	20	一括	放射状暗文
8	土師器坏	(17.5)	(5.0)		A C D	不良	茶褐色	45	一括 表採-55-12G-土層表採	
9	土師器皿	17.0	(4.0)		A D	普通	茶褐色	30	一括-55-12G-一括	
10	須恵器坏	(1.1)		(7.2)	A C D F 片	普通	青灰色	50		末野産
11	土師器鉢	(12.0)	(11.9)		A C D	普通	橙褐色	30	一括	
12	土師器壺	(20.8)	(9.1)		A D	普通	橙褐色	15	一括	
13	土師器甕		(6.4)		A D	良好	黒褐色	40	一括	
14	須恵器平瓶	13.6	(13.5)		A F	普通	黄灰色	50	一括-クワッド-一括	秋間産
15	須恵器鉢	(25.6)	(9.0)		A 片	普通	暗灰色	30		末野産

8の土師器環は北武蔵型環である。4～7の暗文環は内面に放射状暗文が施されていた。10の須恵器環は底部外面を回転ヘラケズリ調整されていた。11は器肉のやや厚い鉢である。14は平瓶の口縁部破片である。内面には青海波の当て具痕が残り、当て具に割れが見られた。

## 8. 井戸跡

調査区中央の64-10グリッドに位置する。形態はロート状に掘り込まれていた。規模は確認した上面で直径135cmである。確認面から約40cm掘り下げた位置から直径68cmと狭くなりそのまま垂直に掘り下げられていた。深さは底面まで調査することができなかったため不明である。

遺構は第38号土壌と重複し、土壌を切り込んで造られていた。土壌は長方形の形態をとることから中・近世の土壌墓と考えられ、これよりも新しい遺構である。

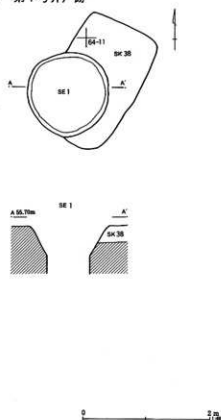
遺物は検出されなかったため時期は不明である。

## 9. 不明遺構

54-13グリッドに位置するP30と第28、35号住居跡の覆土中からかわらけを検出した。第132図1～4はP30と第35号住居跡の覆土中から検出した底部外面には、いずれも糸切り痕が残る。1は内面に煤が付着し灯明皿として利用されていたものと考えられる。第28号住居跡から検出した5～7の底部外面は未調整である。第133図1～14は各グリッドから表採された遺物である。また、15～20は遺跡の表採遺物である。

2、4～9は55-12グリッドから検出した。1は平底の土師器環で体部外面まで横方向のヘラケズリがお

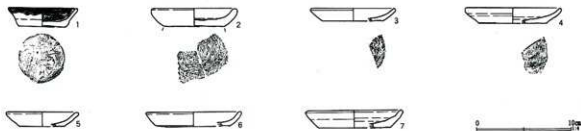
第131図 第1号井戸跡



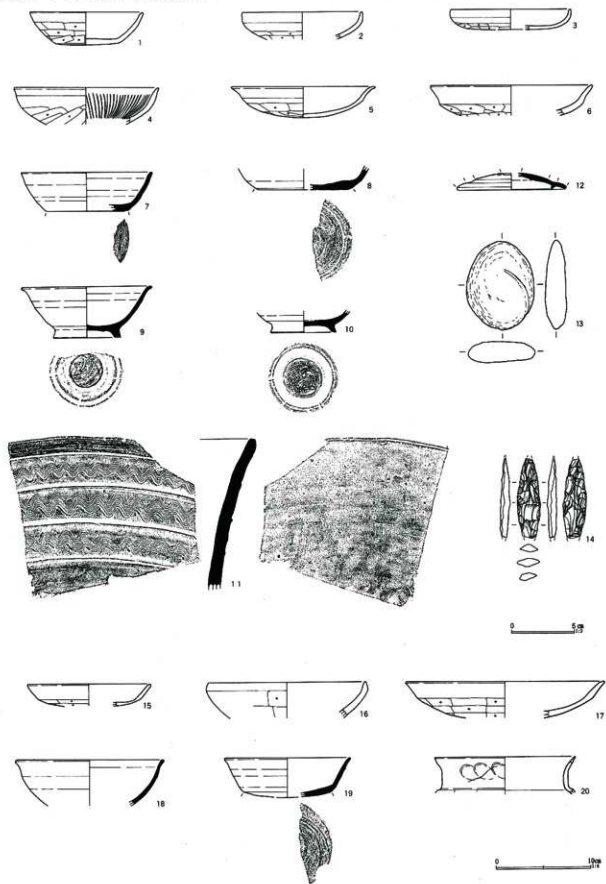
よぶ。4は内面に放射状暗文を施す。7は南比企産である。8～10は末野産であった。8は底部外面を回転ヘラケズリ調整する。11は大甕の口縁部破片である。3段に沈線で区画された中に7本の櫛歯による。波状文が施文されている。14は尖頭器である。装着部分は欠損しているため有望であるかは不明である。

18,19は末野産の須恵器である。19は底部がやや膨らみをもち突出する。外面は回転ヘラケズリ調整である。20は「コ」の字状口縁の台付甕と考えられる。口縁部には指頭瓦痕が残る。

第132図 中世の出土遺物



第133図 グリッド出土・表面採集遺物



第93表 中世の出土遺物観察表 (第132図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	燈明皿	7.3	2.0	5.0	A D F	普通	褐色	95	P-30No.1	
2	かわらけ	9.0	1.9	6.4	A B C D E F	不良	黄褐色	20	SJ-35	
3	かわらけ	(8.8)	1.3	6.4	A B C D E F	普通	淡褐色	20	SJ-35	
4	かわらけ	(10.0)	1.6	(7.2)	A B D E F	普通	茶褐色	20	SJ-35	
5	かわらけ	(7.4)	1.5	(4.8)	A D F	普通	橙褐色	20	SJ-28	
6	かわらけ	(10.0)	(1.5)	(7.8)	A D F	普通	橙褐色	20	SJ-28	
7	かわらけ	(9.9)	1.9	(7.6)	A D F	普通	橙褐色	20	SJ-28	

第94表 グリッド出土・表面採集遺物観察表 (第133図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	土師器杯	(12.0)	3.5	6.9	A B D F	普通	褐色	80	55-14G一拵	
2	土師器杯	(12.6)	(2.9)		B D F	普通	褐色	30	55-12G一拵	
3	土師器杯	(12.6)	(2.1)	(9.0)	A B D F	普通	明褐色	25	60-11G一拵	
4	土師器杯	(7.7)	(3.9)		A B D F	普通	褐色	30	55-12G一拵	放射状暗文
5	土師器皿	(15.2)	(3.3)		A B D F	普通	明褐色	25	55-12G一拵	
6	土師器皿	(17.2)	(3.2)		A B D F	普通	褐色	30	55-12G一拵	
7	須恵器杯	(14.0)	4.1	(8.8)	A B F 針	良好	灰色	25	55-12G表採	南比金産
8	須恵器杯		(2.3)	(9.6)	A B C D F 片	良好	灰色	30	55-12G表採	末野産 底部回転ヘキサリ
9	須恵器高台杯	(13.7)	5.4	7.1	A F 片	普通	灰色	30	55-12G表採	末野産
10	須恵器高台杯		(2.3)	6.9	A C D F 片	普通	灰色	80	55-14G	末野産
11	須恵器蓋				A B C F 片	良好	黒色		67-9G	末野産
12	須恵器蓋	(11.2)	(1.7)		A C F	普通	灰色	5	62-11G表採	
13	石	残存長 9.3, 幅 7.0, 厚さ 2.1, 重量 213.5g							55-13G一拵	
14	石器	残存長 6.3, 幅 1.8, 厚さ 0.8, 重量 9.5g							SJ-1 No.2	尖頭器
15	土師器杯	(13.0)	(2.3)		A D F	普通	褐色	20		
16	土師器杯	(16.6)	(3.8)		A D F	普通	茶褐色	5		
17	土師器皿	(20.9)	(3.9)		A B F	普通	明褐色	20		
18	須恵器杯	(15.6)	(4.9)		A C F 片	良好	灰色	15		末野産
19	須恵器杯	(13.2)	(4.1)	(9.2)	C D F 片	普通	褐灰色	30		末野産 回転ヘキサリ
20	土師器台付甕	(14.8)	(4.0)		A B D F	普通	暗褐色	20		



## V 新田遺跡 (A区)

### 遺跡の概要

新田遺跡は、埼玉県大里郡岡部町大字岡字新田に所在する。遺跡は、洪積扇状地である棚引台地上に展開する集落跡である。遺跡の北側約1kmには、利根川および小山川によって開析された沖積地である妻沼低地が形成されている。遺跡の標高は57m前後で、高燥な台地平坦面に位置する。沖積地との比高差はおおよそ20mである。遺跡の範囲は南北約300m、東西約320mである。遺跡の面積は推定で約48,000㎡である。全体の地形は平坦であるが緩やかに北東に向かって傾斜をもつ。

遺跡北側は、熊野遺跡と隣接し、集落の形成時期や存続期間はほぼ両遺跡とも同一の傾向が見られ、有機的な関係をもつ遺跡と考えられる。

周辺の台地上には、奈良・平安時代の遺跡として、熊野遺跡、内出遺跡、白山遺跡、中宿遺跡、滝下遺跡が存在する。この台地上には、古墳時代の集落跡は認められず、むしろ、四十坂刈間山古墳、寅箱荷塚古墳、お手長山古墳、内出八幡塚古墳、前原受岩塚古墳の大型古墳や四十塚古墳群、白山古墳群などの群集墳が沖積地を見下ろす台地縁辺に形成されている。古墳時代の集落後は、この沖積地に展開し、砂田前遺跡、岡部条里遺跡、戸森前遺跡などが分布する。

本書で報告する新田遺跡は、県道針ヶ谷岡線の建設に伴う発掘調査であり、調査区は幅1～1.5m、全長150mほどである。便宜的に調査区をA・B区に分けた。南側をA区、北側をB区とし、中間地区は攪乱が激しく遺構の遺存が認められないため調査を断念した。

A区は、平成7年9月1日から9月30日まで実施し、調査面積は500㎡である。B区は、平成8年10月1日から10月31日まで実施し、調査面積は500㎡である。調査区は、北西方向から10mグリッドを設定した。グリッドの原点座標はX=23,800、Y=-53,500である。新田遺跡A区85-5グリッドの座標はX=22,950、Y=-53,450である(第6図)。

### 新田遺跡A区

調査の結果、新田遺跡A区では、奈良・平安時代の竪穴住居跡12軒、ピットを検出した。後世の攪乱が激しく住居跡の形態を留める遺構は少ない。

集落の景観としてはいずれの住居跡も北東方向に建物の軸を取っていることである。また、隣接するものの重複関係をもつ住居跡が少ないことである。

今回検出した住居跡の時期は出土した土器の検討から、概ね、奈良時代前半の住居跡が主体であった。第1・4・7号住居跡が古く、第2・3・8・11号住居跡が次の段階、次いで、第6・9・12号住居跡がやや新しく前半までにほとんどの住居跡が存在する。第10号住居跡は奈良時代から平安時代にかけての時期と考えられる。そして、最も新しい住居跡は第5号住居跡で平安時代9世紀中葉段階と考えられる。

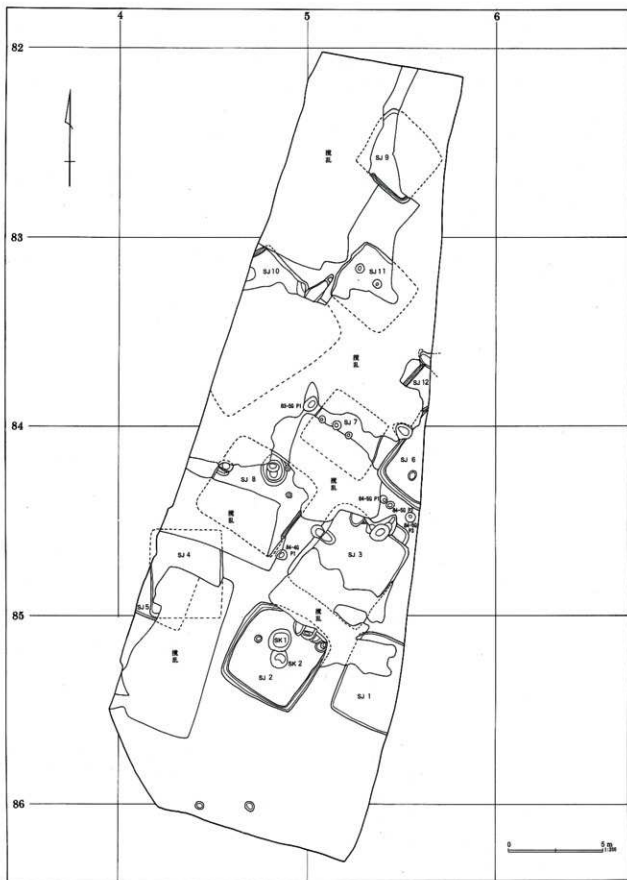
このように、新田遺跡A区の集落の趨勢はほぼ奈良時代前半にピークがあったことを窺わせるが、極めて狭い調査範囲であり、今後周辺の調査成果とも合わせ検討が必要である。

住居跡の様相を概観すると、奈良時代前半期の住居跡では、床下土層を持つ住居跡が第2・8号住居跡で認められた。また、第3号住居跡では3基のカマドを検出し、一軒の竪穴住居において3度の付け替えが行われていたことになる。また、カマド右脇にテラス状の浅い掘り込みが認められた。この他、平安時代初期の第10号住居跡では煙道が壁外に長く伸び、カマド全体の規模も大きく、住居規模も大きい可能性がある。

住居跡が重複する遺構は2箇所である。第4・5号住居跡では、奈良時代の第4号住居跡の覆土を切りこんで平安時代の第5号住居跡が造られている。また、第6・12号住居跡では第12号住居跡の覆土を切りこんで第6号住居跡が造られていた。

出土遺物は、土師器杯、皿、甕、台付甕、須恵器杯、蓋、皿、高台付杯、甕、鉄製刀子、釘、石製砥石などの遺物を検出した。

第134図 新田遺跡A区全体図



## 1. 竪穴住居跡

## 第1号住居跡 (第135図)

調査区の南側85-5グリッドに位置する。調査区は道路幅のため幅0.8-1.5mと狭く西側は調査区域外となり遺構が伸びる。また、東側は攪乱によって遺構が一部壊されていた。カマドは検出できず、東壁または西壁にあったものと考えられる。重複関係はなく、東側に第2号住居跡、北東側に第3号住居跡が近接して位置する。

平面形態は攪乱および調査区域外にかかるため不正確であるが、ほぼ方形と判断できる。規模は主軸長4.75m、副軸長3.34m+ $\alpha$ 、確認面からの深さは28cmである。主軸方位はN-23°-Eである。

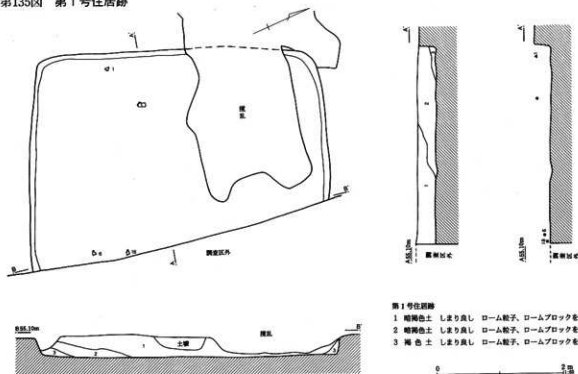
床面は、北側に大きく攪乱を受けるが残存する部分はほぼ平坦である。床面は、軟らかく周溝は検出されなかった。壁はほとんど垂直に立ち上がる。貯蔵穴や柱穴は検出できなかった。

覆土は、断面観察によりレンズ状の自然堆積である。覆土中央には土塊を確認した。

遺物は、土師器環、皿、暗文環、甕、須恵器環、蓋、甕などを検出した。遺物はいずれも小破片であり、全体の器形を留めるものはなかった。

図示した須恵器環は1~3・5が末野産である。4は南比企産であった。

第135図 第1号住居跡



第1号住居跡

- 1 暗褐色土 しまり直し ローム粘土、ロームブロックを少量含む
- 2 暗褐色土 しまり直し ローム粘土、ロームブロックを多量含む
- 3 褐色土 しまり直し ローム粘土、ロームブロックを多量含む

0 2m

第95表 第1号住居跡出土遺物計量表

器種	土師器							須恵器					鉄石器		
	環	皿	暗文環	鉢	甕	瓶	台付甕	その他	環	蓋	碗・鉢	高台環		皿・盤	壺
口縁部(片)	17	1			9				3	3					
(g)	200	4			135.7				20.9	29.6					
体部(片)	6		2		109				2						1
(g)	48		19.5		610				10						15
底部(片)									1			1			
(g)									6			22.5			



## 第2号住居跡(第137・138図)

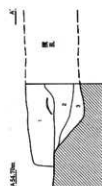
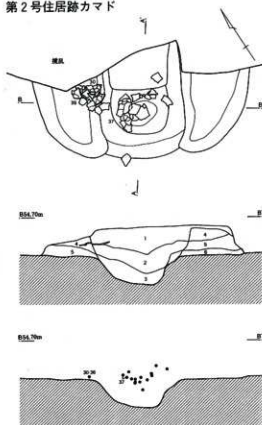
調査区南側中央の85-4・5グリッドに位置する。北側の一部は攪乱を受け、カマド煙道部分を検出できなかった。本住居跡の東側に第1号住居跡、北側に第3号住居跡が位置する。平面形態は方形である。規模は主軸長4.90m、副軸長4.69m、深さ56cmである。主軸方位はN-34°-Wである。

床面は、ほぼ平坦である。住居跡中央に2基の床下土壌を検出した。床下土壌の上面は黄褐色のロームによって貼り床されていた。壁溝はほぼ全周する。カマドは、北壁中央に設けられ、全長92cm、焚き口幅58cm、

焼成部の最大幅は68cm、掘り込みの深さは24cmである。両袖は灰白色粘土によって貼りこまれていた。カマド内の中央部分からは土師器の甕が出土し、掛けた状態の甕が崩落したものと考えられる。

遺物は、カマド内から検出された第139・140図36の甕、左袖の上面から36、東壁際から35の甕が出土し、カマド前提部からは38の甕が検出された。その他、床面近くから土師器杯、皿、暗文环、須恵器蓋などを検出した。特に、鉄製刀子や小型の土錘も検出した。

第137図 第2号住居跡カマド



第2号住居跡 カマド

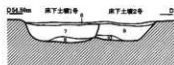
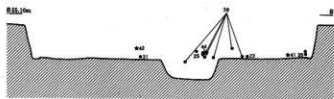
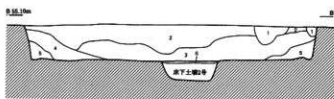
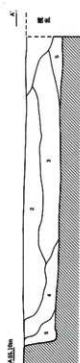
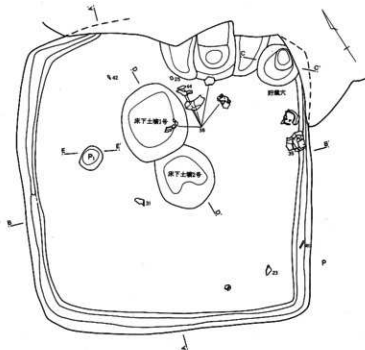
- 1 灰褐色土 ロームブロックを多量含む 粘土(天井崩壊土)
- 2 暗褐色土 焼土粒子、焼土ブロックを多量含む
- 3 暗褐色土 灰、焼土粒子を多量含む 灰層
- 4 灰白色土 焼土粒子を少量含む 粘土
- 5 灰白色土 4層に比しあまり奥し 粘土
- 6 灰褐色土 茶褐色焼土ブロックを含む

0 1m

第97表 第2号住居跡出土遺物計量表

器種	土師器										須恵器				鉄・石器
	杯	皿	暗文杯	鉢	甕	甌	台付甕	その他	杯	蓋	碗・鉢	高台杯	皿・盤	釜	鉄器
計量値	85	19	7		57				1	3	1				3
口縁部(片)															
(g)	664	170	65.7		4282			23	9	9					55
体部(片)	71		5		746				2	4					
(g)	370		46.2		4098				8	60				8	165
底部(片)					20										1
(g)					250										1.1

第138図 第2号住居跡



第2号住居跡

- 1 暗褐色土 焼土粒子、ローム粒子を少量含む
- 2 暗褐色土 ロームブロックを少量、焼土粒子、ローム粒子を含む
- 3 暗褐色土 ややしまり直し、ローム粒子、ロームブロックを多量含む
- 4 暗褐色土 ロームブロックを多量、焼土粒子を含む
- 5 褐色土 しまり直し、ロームブロックを多量含む
- 第2号住居跡 床下土壇1・2
- 6 黄褐色土 ロームブロック、茶褐色粘土ブロックを多量含む
- 7 暗褐色土 ロームブロック、茶褐色粘土ブロックを多量含む
- 8 褐色土 ロームブロックを多量含む
- 9 暗褐色土 ロームブロックを多量含む
- 10 褐色土 茶褐色粘土ブロックを多量含む

第2号住居跡 貯蔵穴

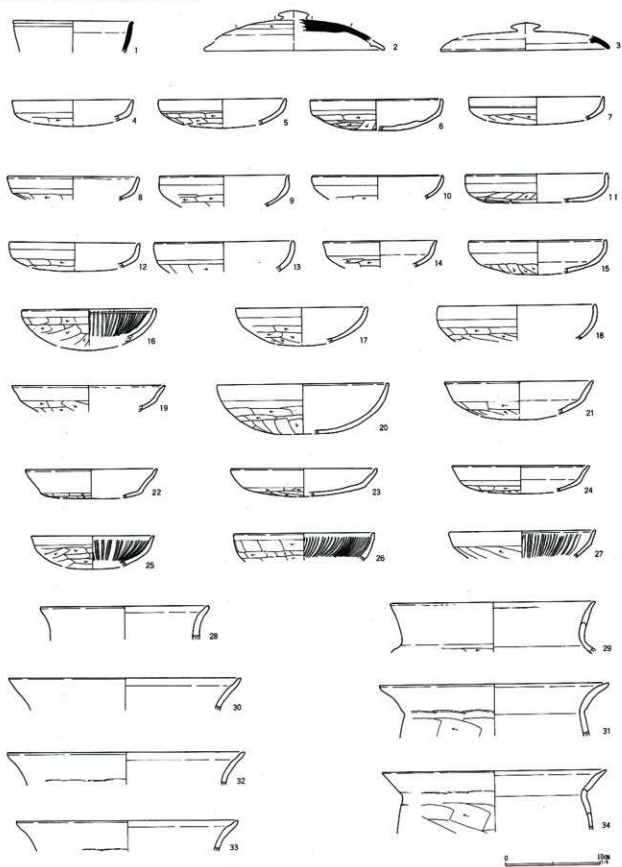
- 1 灰白色土 茶褐色粘土ブロックを少量含む 粘土
- 2 暗褐色土 ローム粒子、灰白色粘土ブロックを含む
- 3 暗褐色土 ローム粒子、茶褐色粘土ブロックを多量含む

第2号住居跡 Pit1

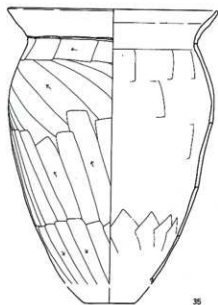
- 1 暗褐色土 しまり直し、ローム粒子を少量含む
- 2 褐色土 しまり直し、ローム粒子を多量含む

0 1.5m 3m

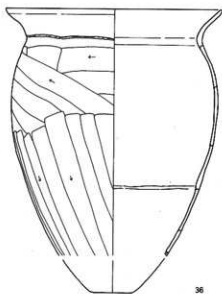
第139図 第2号住居跡出土遺物(1)



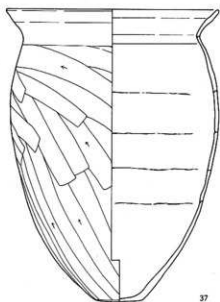
第140图 第2号住居跡出土遺物(2)



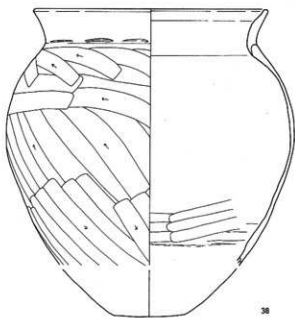
35



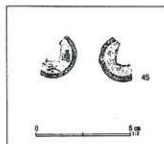
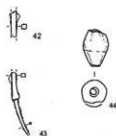
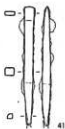
36



37



38



0 10cm

0 5cm



第98表 第2号住居跡出土遺物観察表 (第139・140図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考	
1	須恵器環	(12.6)	(3.3)		ABC F	良好	褐灰色	5		末野産	
2	須恵器蓋	(19.2)	(4.2)		ABC片	良好	褐灰色	20		末野産	
3	須恵器蓋	(17.8)	(2.9)		A C E F片	良好	灰色	10		末野産	
4	土師器皿	(12.8)	(2.7)		AB D F	普通	褐色	15			
5	土師器皿	(13.4)	(3.0)		AB D F	普通	茶褐色	15			
6	土師器環	(13.9)	3.2		A B C D E F	普通	茶褐色	30			
7	土師器環	(14.3)	(2.9)		A B D E F	普通	明褐色	25			
8	土師器環	(13.8)	(2.4)		A B D F	普通	褐色	15			
9	土師器環	(13.6)	(3.3)		A B D F	普通	褐色	30			
10	土師器環	(13.8)	(2.5)		A B D E F	普通	褐色	30			
11	土師器環	(15.0)	(3.0)		A B D F	普通	赤褐色	20	#7*		
12	土師器環	(13.8)	(3.0)		A B D F	普通	褐色	15			
13	土師器環	(14.6)	(3.2)		A B D E F	普通	茶褐色	25			
14	土師器環	(11.9)	(2.8)		A B D E F	普通	黒褐色	25			
15	土師器環	(14.4)	(3.6)		A B D F	普通	黒褐色	20			
16	土師器環	(14.1)	(4.4)		A B D F	普通	褐色	20		放射状暗文	
17	土師器環	(14.0)	(4.0)		A B D F	普通	茶褐色	25			
18	土師器環	(16.8)	(3.7)		A B D F	普通	褐色	35			
19	土師器皿	(16.0)	(2.8)		A B C D F	普通	褐色	20	#7*		
20	土師器環	(18.0)	(5.3)		A B D F	普通	褐色	10			
21	土師器皿	(15.8)	(4.1)		A B D F	普通	暗褐色	20			
22	土師器環	(13.8)	(3.1)		A B D F	普通	黒褐色	20			
23	土師器環	(15.4)	(3.0)		A B D F	普通	褐色	40	No.12		
24	土師器皿	(14.6)	(3.0)		A B D F	普通	暗褐色	15	#7*		
25	土師器環	(12.9)	(3.5)		A B D F	普通	黒褐色	20	No.2	放射状暗文	
26	土師器環	(14.8)	(2.9)		A B D F	普通	明褐色	20		放射状暗文	
27	土師器環	(15.6)	(2.8)		A B D F	良好	明褐色	20		放射状暗文	
28	土師器甕	(17.8)	(3.6)		A B C D F	普通	黒褐色	10			
29	土師器甕	(21.6)	(5.2)		A B F	普通	明褐色	45			
30	土師器甕	(24.6)	(3.4)		A B C D F	普通	褐色	30	#7* No.16		
31	土師器甕	(24.4)	(5.5)		A B D E F	普通	暗褐色	25	No.9		
32	土師器甕	(25.1)	(3.4)		A B C D F	普通	暗褐色	30	#7*		
33	土師器甕	(23.4)	(3.2)		A B D E F	普通	明褐色	15			
34	土師器甕	(23.8)	(6.4)		A B C D E F	普通	明褐色	15	SJ-2-SK-1		
35	土師器甕	22.0	(29.0)		A B C D E F	普通	褐色	50	No.15		
36	土師器甕	23.0	(26.0)		A B C D E F	普通	褐色	50	#7* No.16		
37	土師器甕	22.3	30.8	(5.0)	A B C D E F	良好	暗褐色	70	#7* No.9-10		
38	土師器甕	24.6	27.0		A B C D E F	普通	褐色	50	No.3・4・5・6・7・8・#7*		
39	須恵器甕				A C D片	良好	黒灰色	5		末野産	
40	須恵器甕				A C F片	良好	黒灰色			末野産	
41	鉄製壺	残存長 12.6, 幅 1.1, 厚さ 0.8cm, 重量 45.8g							No.13		
42	不明鉄製品	残存長 2.8, 幅 0.6, 厚さ 0.5cm, 重量 3.4g							覆土上層		
43	鉄鏃?	残存長 6.7, 幅 0.8, 厚さ 0.4cm, 重量 6.2g							No.1		
44	土鏃	残存長 3.8, 幅 2.8, 孔径 0.9cm, 重量 23.3g							90	No.4	
45	古銭	銭径(2.50), 穿径(0.70)cm, 重量 1.1g							50		寛永通宝 縁背付着

## 第3号住居跡 (第141・142図)

調査区南側中央の85-4・5グリッドに位置する。  
南側の一部は大きく攪乱を受け南壁部分をほとんど検

出できなかつた。本住居跡の西側に第8号住居跡、北  
側に第6・7号住居跡が位置する。平面形態は長方形

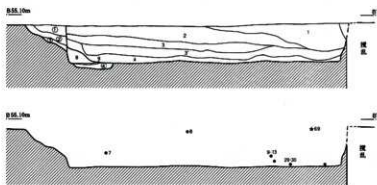
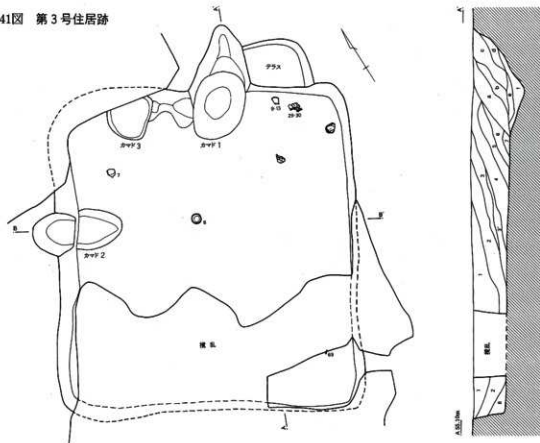
である。規模は主軸長5.26m、副軸長4.89m、深さ82cmである。主軸方位はN-39°-Wである。

床面は、ほぼ平坦である。カマドは、3基設けられていた。北壁の中央と西寄りに設けられ、さらに西壁にも痕跡が認められた。3基のカマドはカマド1が最も新しく規模は全長172cm、焚き口幅85cm、焼成部の最大幅は54cm、掘り込みの深さは19cmである。カマド1の東側に浅い9.5cmほどのテラスが存在した。カマド3の規模は全長142cm、焚き口幅39cm、焼成部の最

大幅は44cm、掘り込みの深さは14.5cmである。掘り込み部分に貼り床が確認されないうためカマド1と併設かあるいは1の前身の可能性が考えられる。

また、西壁に検出されたカマド2は、掘り込み部分に貼り床を検出し壁の立ち上がりをも認めたことから初期のカマドと考えられる。規模は全長136cm、焚き口幅76cm、焼成部の最大幅は62cm、掘り込みの深さは14.6cmである。柱穴や周溝、貯蔵穴は検出されなかった。

第141図 第3号住居跡

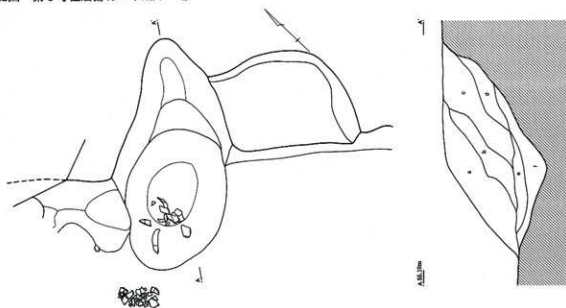


第3号住居跡

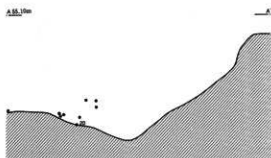
- 1 赤褐色土 ローム粒子、ロームブロックを少量含む
- 2 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを少量、焼土粒子を少量含む
- 3 黄褐色土 ローム粒子、ロームブロックを主体
- 3' 黄褐色土 ロームブロックを主体、ロームブロックの隙間に3層が入り込む
- 4 暗褐色土 ローム粒子を少量、焼土粒子を少量含む
- 5 黒褐色土 ローム粒子、焼土粒子を少量含む
- 6 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロック、焼土粒子を少量含む
- 7 暗灰色 粘土ブロック主体、焼土粒子を少量含む
- 8 暗褐色土 ローム粒子を少量含む
- 9 黄褐色土 ロームブロックを少量含む

0 0.5m

第142図 第3号住居跡カマドNo.1・2



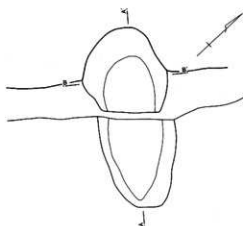
0 1m



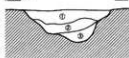
第3号住居跡 カマドNo.1

- a 暗褐色土 5J3の4層
- b 暗褐色土 粘土多量、焼土粒子を含む(天井敷層土)
- c 暗赤褐色土 焼土粒子、焼土ブロックを多量含む
- d 褐色土 粘土を多量含む
- e 灰白色土 粘土、灰を多量含む(灰層)
- f 暗褐色土 焼土粒子を少量含む

0 1m



0 1m

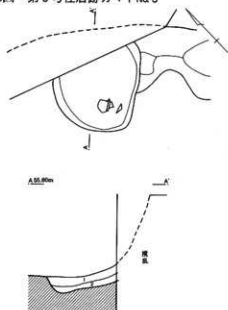


第3号住居跡 カマドNo.2

- ① 暗褐色土 しまり直し、焼土粒子を含む
- ② 暗褐色土 焼土粒子を多量含む
- ③ 灰褐色土 しまり直し、粘土を多量含む
- ④ 暗褐色土 全やしまり直し、焼土粒子を多量含む

0 1m

第143図 第3号住居跡カマドNo.3



第3号住居跡 カマドNo.3

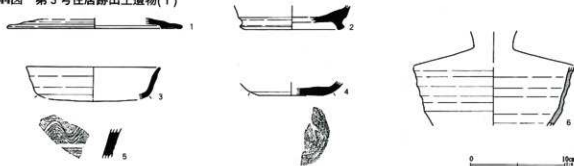
- 1 暗赤褐色土 ローム粒子、焼土粒子を少量含む（断面部）  
2 暗褐色土 しまり質し、ローム粒子を少量含む（掘り方）



遺物は、第144～146図に示したが、住居内の一括を尊重すれば時期差の存在が明らかに認められる。このことは先の遺構で見られたようにカマド1～3までの段階を表現したものと捉えられ、継続的に本住居跡に居住したことを窺わせる。土師器環でみると10、15、28、34は北武蔵型環で体部の未調整部分をわずかに残す程度の調整である。甕の56、59などは器壁がやや薄いものの胴部の張りは弱く長胴化の傾向が残ることから初期段階のカマド2の共存遺物と見ることが出来る。また、土師器環の9、13、29、30は器高もやや浅くなり丸底化が強い、甕の60は頸部の削りこみが見られ胴部に張りもち、本住居跡の出土遺物の中では新しい傾向が見られカマド1の段階として考えられる。

この他、暗文環も多く出土し45の暗文環は8本単位で間隔を置いた放射状暗文が施されている。磁石や鉄製釘なども検出された。

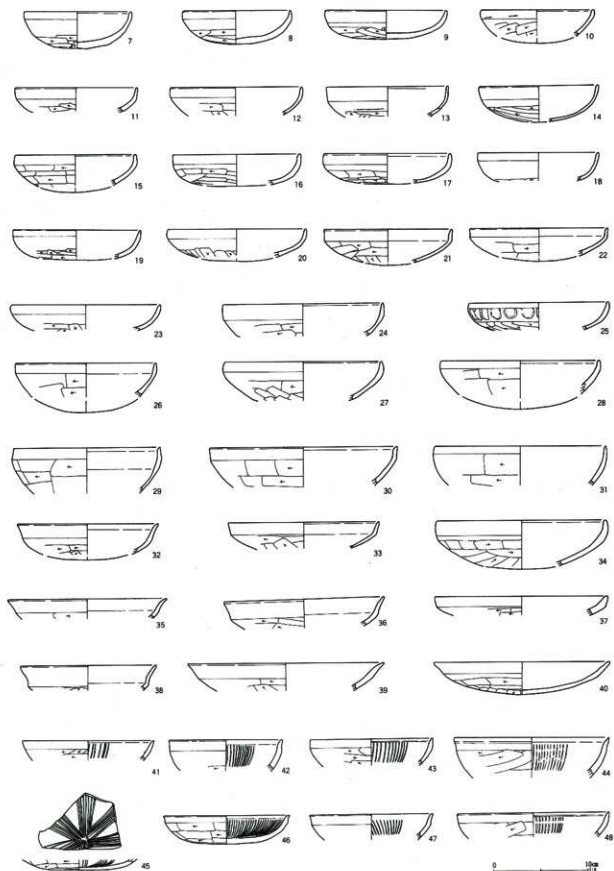
第144図 第3号住居跡出土遺物(1)



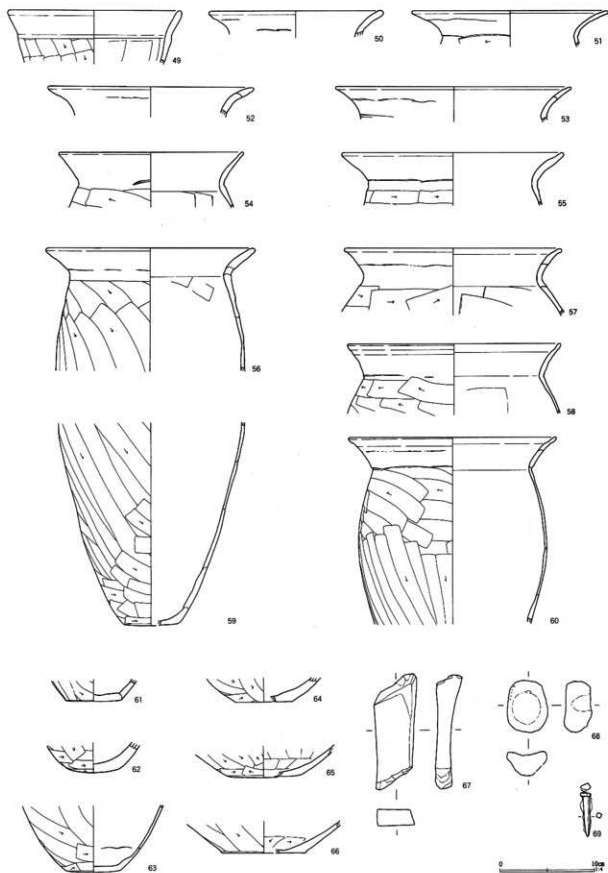
第99表 第3号住居跡出土遺物観察表 (第145・146図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	須恵器蓋	(18.4)	(1.1)		ACF片	良好	灰色	10		未野産
2	須恵器高台環		(2.5)	(9.8)	ACF片	良好	黒灰色	35		未野産
3	須恵器環	(14.0)	(3.6)		ACD片	普通	灰色	15	#71' No.3	未野産
4	須恵器環		(1.4)	(6.8)	ADF	普通	褐灰色	30		未野産
5	須恵器甕				A片	良好	黒灰色	5		未野産
6	灰釉陶器長頸甕				A F	良好	乳灰色	25		輪葉付着
7	土師器環	(11.4)	3.9		ABCDEF	普通	赤褐色	60	No.1	
8	土師器環	11.3	3.5		ABCDEF	良好	黒褐色	100	No.2	
9	土師器環	(12.8)	3.0		ABCDEF	普通	暗褐色	70	No.3	
10	土師器環	(11.8)	(3.5)		ABCDEF	普通	暗褐色	15		
11	土師器環	(13.0)	(2.5)		ABCDEF	普通	褐色	20		
12	土師器環	(13.9)	(3.0)		ABDEF	普通	褐色	15		
13	土師器環	(12.7)	(3.1)		ABDEF	普通	褐色	25	No.3・#71'一括	
14	土師器環	(12.6)	(3.8)		A F	普通	褐色	20	#71' No.1	
15	土師器環	(12.8)	(3.9)		ABCDEF	普通	赤褐色	10		
16	土師器環	(13.4)	(3.4)		ABCDEF	普通	黒褐色	30	#71' No.2	

第145図 第3号住居跡出土遺物(2)



第146图 第3号住居跡出土遺物(3)

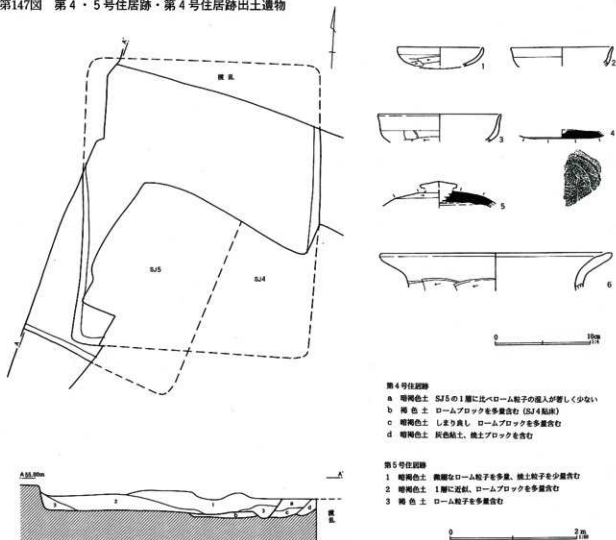


番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考	
17	土師器坏	(13.2)	(3.2)		ABCDEF	普通	褐色	20			
18	土師器坏	(12.8)	(3.0)		ABCF	普通	暗褐色	25			
19	土師器坏	(13.5)	(3.0)		ABCDE	普通	褐色	20			
20	土師器坏	(14.6)	(3.4)		ABCDEF	普通	褐色	20	#7 <sup>+</sup> No1-6		
21	土師器坏	(13.6)	(3.8)		ADF	普通	明褐色	25			
22	土師器坏	(14.5)	(3.5)		ABEF	普通	暗褐色	25			
23	土師器坏	(15.8)	(2.6)		ABDEF	普通	黑褐色	15	#7 <sup>+</sup> No2		
24	土師器坏	(16.8)	(3.4)		ABDF	普通	暗褐色	15			
25	土師器坏	(14.8)	(2.9)		ABDEF	普通	黑褐色	20			
26	土師器坏	(14.8)	(5.2)		ABDF	普通	黑褐色	15			
27	土師器坏	(16.6)	(4.1)		ABCDF	普通	暗褐色	20			
28	土師器坏	(16.8)	(5.1)		ABEF	普通	明褐色	15			
29	土師器坏	(15.6)	(4.8)		ABCDEF	普通	明褐色	20	No4		
30	土師器坏	(19.8)	(4.2)		ABCDEF	不良	褐色	40	No4		
31	土師器坏	(18.2)	(4.2)		ABCDEF	普通	茶褐色	15			
32	土師器坏	(15.0)	(3.8)		ABDF	普通	暗褐色	25			
33	土師器坏	(15.8)	(2.8)		ABDF	普通	褐色	20	#7 <sup>+</sup> No1		
34	土師器坏	(18.0)	(5.1)		ABCDEF	普通	黑褐色	25			
35	土師器皿	(17.0)	(2.1)		ABF	普通	褐色	10			
36	土師器皿	(16.8)	(3.1)		ABCF	普通	褐色	15			
37	土師器皿	(18.3)	(2.0)		ABCF	普通	灰褐色	5			
38	土師器皿	(14.4)	(2.2)		ABCDEF	普通	褐色	15	#7 <sup>+</sup> No1		
39	土師器皿	(20.8)	(2.9)		ABF	普通	明褐色	5			
40	土師器皿	(18.6)	3.4		ABCDEF	普通	褐色	30	#7 <sup>+</sup> No1		
41	土師器坏	(13.9)	(2.2)		ABDF	普通	明褐色	5			
42	土師器坏	(11.9)	(3.3)		ABF	普通	褐色	5		放射状暗文	
43	土師器坏	(12.9)	(2.9)		ABDF	普通	明褐色	5		放射状暗文	
44	土師器坏	(16.4)	(4.3)		ABCEF	普通	明褐色	10		放射状暗文	
45	土師器坏		(1.1)		ABEF	普通	黑褐色	40		放射状暗文	
46	土師器坏	(13.4)	3.0		ABDF	普通	褐色	30	#7 <sup>+</sup> No1	放射状暗文	
47	土師器坏	(13.0)	(2.7)		ABCDF	普通	褐色	5		放射状暗文	
48	土師器坏	(16.2)	(2.6)		ADF	普通	黑褐色	5		放射状暗文	
49	土師器鉢	(18.2)	(5.7)		ABCDF	普通	褐色	25			
50	土師器甕	(18.0)	(2.8)		ABCDF	普通	褐色	20			
51	土師器甕	(20.4)	(3.9)		ABDF	普通	褐色	20			
52	土師器甕	(21.5)	(3.1)		ABCDF	普通	明褐色	10			
53	土師器甕	(24.7)	(3.7)		ABCDEF	普通	明褐色	10			
54	土師器甕	(19.4)	(5.8)		ABCDF	普通	褐色	20			
55	土師器甕	(23.2)	(5.5)		ABCDF	普通	褐色	15			
56	土師器甕	(21.6)	(12.9)		ABDF	普通	褐色	20			
57	土師器甕	(22.6)	(7.1)		ABDF	普通	褐色	15			
58	土師器甕	(22.4)	(7.5)		ABDF	普通	褐色	15			
59	土師器甕	5.9	(21.4)		ABCDEF	普通	褐色	40	#7 <sup>+</sup> No1		
60	土師器甕	(22.0)	(19.8)		ABCDEF	普通	橙褐色	40	#7 <sup>+</sup> No1		
61	土師器甕		(2.3)	(6.0)	ABCDF	普通	暗褐色	50			
62	土師器甕		(3.2)	5.3	ABCDF	普通	赤褐色	30			
63	土師器甕		(7.0)	5.6	ABDF	普通	褐色	60			
64	土師器甕		(2.5)	(6.0)	ABF	普通	暗褐色	15			
65	土師器甕		(3.3)	(8.0)	ABDF	普通	褐色	20			
66	土師器甕		(3.4)	(9.0)	ABDF	普通	褐色	20			
67	砾石	残存長 12.2, 幅 4.5, 厚さ 2.6cm, 重量 159.5g						100			
68	軽石	残存長 5.5, 幅 4.2, 厚さ 2.6cm, 重量 34.9g						100	全体に赤粒子付着		
69	鉄製釘	残存長 4.6, 幅 1.1, 厚さ 0.8cm, 重量 5.9g							No7		

第100表 第3号住居跡出土遺物計量表

器種	土師器								須恵器					鉄石器			
	計量値	坏	甗	哈文坏	鉢	甕	瓶	台付甕	その他	坏	蓋	椀・鉢	高台坏		皿・盤	壺	甕
口縁部(片)	107	17	9	1	87					5	3					1	1
(g)	1386	106	120	36	1980					123	19					11	6
体部(片)	142		6		941					2	3				1	7	
(g)	903		42		5250					2	39				97	126	石器
底部(片)					23					3		1					2
(g)					733					85.8		54					194

第147図 第4・5号住居跡・第4号住居跡出土遺物



- 第4号住居跡
- a 暗褐色土 SJ5の1層に比べローム粒子の混入が著しく少ない
  - b 褐色土 ロームブロックを多量含む (SJ4貼床)
  - c 暗褐色土 しまり臭し、ロームブロックを多量含む
  - d 暗褐色土 灰色結土、焼土ブロックを含む

- 第5号住居跡
- 1 暗褐色土 微細なローム粒子を多量、焼土粒子を少量含む
  - 2 暗褐色土 1層に近似、ロームブロックを多量含む
  - 3 褐色土 ローム粒子を多量含む

第101表 第4号住居跡出土遺物観察表 (第146図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	土師器坏	(9.0)	(2.3)		ABDF	普通	橙褐色	10		
2	土師器坏	(10.7)	(2.0)		ABCD	普通	橙褐色	5		
3	土師器坏	(13.0)	(2.9)		ABDF	普通	褐色	5		
4	須恵器坏		(0.9)		ACF針	普通	灰色	20		南北企産 木野産
5	須恵器蓋		(2.9)		ABF片	普通	褐灰色	20		
6	土師器甕	(24.3)	(4.0)		ABCF	普通	橙褐色	10		



第102表 第4号住居跡出土遺物計量表

計量値	土師器							須恵器							鉄石器	
	環	皿	暗文環	鉢	甕	瓶	台付甕	その他	環	蓋	碗・鉢	高台環	皿・盤	壺		甕
口縁部(片)	4				3											
(g)	20				86											
体部(片)	4				26					2					1	
(g)	15				160					82					55	
底部(片)					2				2							
(g)					32				35							

## 第4号住居跡(第147図)

調査区南西の84・85-4グリッドに位置する。本住居跡は大きく攪乱を受け住居跡の形態を留めていない。かろうじて、西壁と東壁の一部を確認しわずかに床面が残存する。第5号住居跡と重複する。住居跡の東側に第2号住居跡、北側に第8号住居跡が位置する。平面形態は長方形と推定される。規模は主軸長4.60m、

## 第5号住居跡(第147図)

調査区南西の84・85-4グリッドに位置する。本住居跡は東側に大きく攪乱を受け、西側は調査区域外となり住居跡の形態を留めていない。かろうじて南壁の一部を確認した。第4号住居跡と重複関係にあり断面観察により本住居跡が新しい。住居跡の東側に第2号

副軸長3.28m、深さ8cmである。主軸方位はN-3°-Eである。

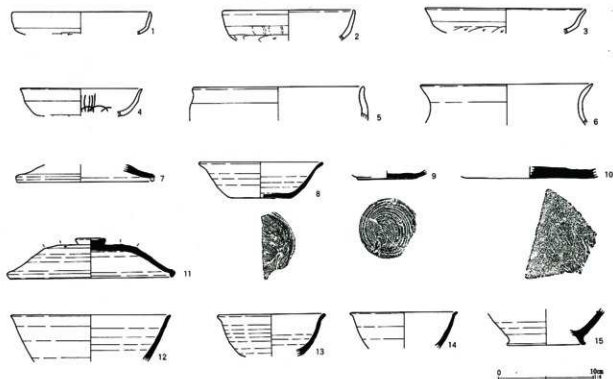
床面は、ほぼ平坦である。周溝は確認されず、カマドは不明である。

遺物は、土師器環、甕、須恵器環、蓋を覆土中から出土した。

住居跡、北側に第8号住居跡が位置する。平面形態や規模は不明である。床面は、ほぼ平坦である。周溝は確認されず、カマドも不明である。

遺物は、土師器環、甕、須恵器環、蓋、高台付環を覆土中から出土した。

第148図 第5号住居跡出土遺物



第103表 第5号住居跡出土遺物観察表 (第147図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	土師器環	(14.6)	(2.3)		A B D F	普通	褐色	5		
2	土師器環		(3.2)		A B C D F	普通	褐色	10		
3	土師器皿	(16.9)	(2.6)		A B C D F	普通	褐色	5		
4	土師器環	(12.9)	(2.9)		A B D F	普通	褐色	10		螺旋・放射状暗文
5	土師器鉢	(18.0)	(3.6)		A B C D F	普通	褐色	5		
6	土師器甕	(18.2)	(4.3)		A B F	普通	褐色	10		
7	須恵器蓋	(14.4)	(1.6)		A C F片	普通	灰色	5		末野産
8	須恵器環	13.0	3.8	(6.5)	A C F片	普通	乳灰色	40		末野産
9	須恵器環		(0.9)	6.1	A D F片	普通	灰色	80		末野産
10	須恵器盤		(1.2)		A C F片	普通	灰色	30		末野産
11	須恵器蓋	(17.1)	4.2		A F片	普通	青灰色	50		末野産 つまみ径3.2cm
12	須恵器輪	(16.8)	(4.9)		D F片	普通	淡灰色			末野産
13	須恵器環	(11.2)	(4.4)		A F片	普通	褐灰色	20		末野産
14	須恵器環	(11.0)	(3.8)		A C F	普通	灰色	5		末野産
15	須恵器高台環		(3.8)	(8.1)	A C片	普通	灰色	15		末野産

第104表 第5号住居跡出土遺物計量表

計量値	土師器								須恵器					黒石器	
	環	皿	暗文環	鉢	甕	台付甕	その他	環	蓋	輪・鉢	高台環	皿・盤	壺		甕
口縁部(片)	17		2	1	6			6	1						
(g)	85		15	15	110			93	230						
体部(片)	35		2	3	60			5	1					4	
(g)	175		5	30	265			32	8					112	
底部(片)								4			1	1			
(g)								75			35	80			

## 第6号住居跡 (第149図)

調査区中央の84-5グリッドに位置する。東側は調査区域外となる。また、カマドの一部は攪乱を受けている。本住居跡は第13号住居跡と重複関係にあり本住居跡が新しい。西側に第7号住居跡、南側に第3号住居跡が位置する。

平面形態は不明である。残存規模は主軸長4.02m、副軸長3.00m、深さ47cmである。主軸方位はN-49°-Eである。床面は、地山のローム土を基盤とし硬くしまり平坦である。周溝は確認された壁部分ではすべてに検出された。周溝の幅は40cm前後、深さは12cmである。主柱穴は、1箇所確認でき径50cm、深さ18.5cmである。

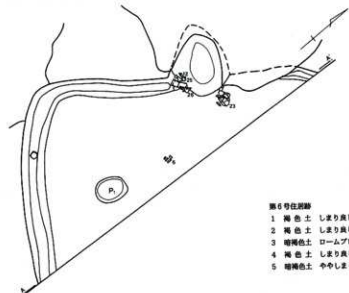
第105表 第6号住居跡出土遺物観察表 (第149・150図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	土師器環	(11.0)	(2.4)		A B C D E F	普通	褐色	20		
2	土師器環	(12.5)	(3.1)		A B C D E F	普通	褐色	10		
3	土師器環	(12.0)	(2.9)		A B C D E F	普通	褐色	5		

カマドは、西壁中央に設けられていた。規模は全長163cm、焚き口幅167cm、焼成部の最大幅は74cm、掘り込みの深さは23cmである。カマド袖の粘土は検出できなかったが、両袖部分に土師器甕の破片がまとまって出土しており、袖の心材として利用されていた可能性が考えられる。

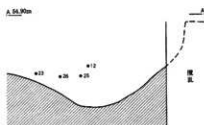
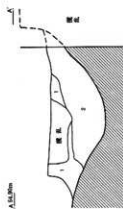
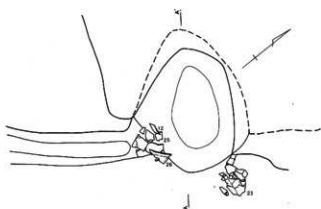
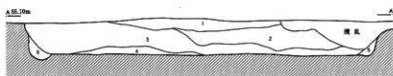
遺物は、土師器環、皿、鉢、甕、須恵器環を検出した。土師器環は北武蔵型環を主体とし暗文杯が若干含まれている。土師器甕は胴部に張りもち器内を薄くする。調整はヘラ状工具によって頸部は斜め削りが見られる。第150図の9は底部外面に墨痕が見られた。

第149図 第6号住居跡・カマド



第6号住居跡

- 1 褐色土 しまり直し ロームブロック、ローム粒子を多量含む
- 2 褐色土 しまり直し、ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む
- 3 暗褐色土 ロームブロックを多量含む
- 4 褐色土 しまり直し ロームブロックを多量含む
- 5 暗褐色土 ややしまり直し ローム粒子を多量含む

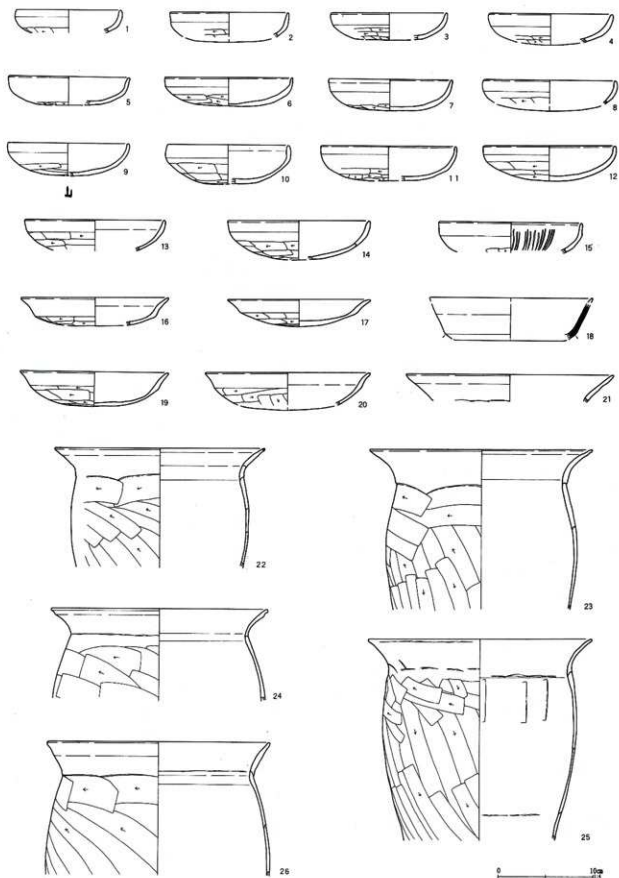


第6号住居跡 カマド

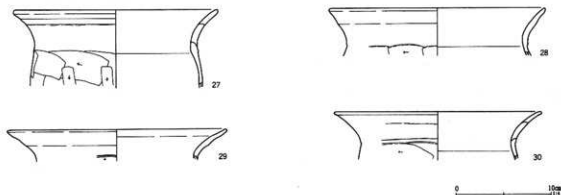
- 1 茶褐色土 焼土粒子、焼土ブロック、ロームブロックを含む (天井崩落土)
- 2 暗赤褐色土 ややしまり直し、焼土粒子多量、灰、炭を少量含む



第150图 第6号住居跡出土遺物(1)



第151図 第6号住居跡出土遺物(2)



番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
4	土師器環	(13.0)	(3.2)		ABCDEF	普通	褐色	10		
5	土師器環	(12.8)	(3.0)		ABD	普通	褐色	10		
6	土師器環	(13.5)	3.0		ABDE	普通	褐色	40	No.1	
7	土師器環	(13.0)	3.3		ABD	普通	褐色	30		
8	土師器環	(14.0)	(3.2)		ABDE	普通	褐色	10	#7ト	
9	土師器環	12.8	(3.4)		ABD	良好	褐色	50		墨書「山」?
10	土師器環	(12.8)	(4.2)		ABDF	普通	褐色	20		
11	土師器環	(14.0)	(3.6)		ABDF	普通	褐色	30		
12	土師器環	14.0	3.8		AD	普通	褐色	60	#7トNo.2	
13	土師器環	(14.8)	(3.3)		ABD	普通	褐色	20		
14	土師器環	(15.0)	(4.1)		ABCDEF	普通	暗褐色	40	覆土・#7ト	
15	土師器環	(15.1)	(3.2)		ADEF	普通	橙褐色	10		放射状暗文
16	土師器皿	(15.6)	(3.0)		ABCDEF	普通	褐色	20		
17	土師器皿	(14.8)	2.9		ABCDEF	普通	褐色	30		
18	須恵器環	(17.1)	(4.5)		ACDF片	普通	灰色	5		末野産
19	土師器皿	(15.7)	3.6		ABCDEF	普通	褐色	30		
20	土師器皿	(17.4)	(4.0)		ADEF	普通	褐色	10		
21	土師器甕	(21.8)	(2.9)		ABCDEF	普通	褐色	5		
22	土師器甕	(22.2)	(12.6)		ABCDEF	良好	橙褐色	20	覆土	
23	土師器甕	(23.6)	(16.8)		ABCDEF	普通	褐色	40	#7トNo.4・覆土	
24	土師器甕	(22.6)	(9.7)		ABCDEF	普通	暗褐色	20	#7ト	
25	土師器甕	(23.7)	(21.2)		ABCDEF	普通	褐色	50	#7トNo.3	
26	土師器甕	(23.6)	(14.0)		ABCDEF	良好	淡褐色	30	#7トNo.1・#7ト	
27	土師器甕	(21.6)	(8.2)		ABCDEF	普通	茶褐色	10	#7ト	
28	土師器甕	(22.7)	(5.0)		ABCDEF	普通	褐色	10		
29	土師器甕	(23.1)	(3.3)		ABCDEF	普通	褐色	5		
30	土師器甕	(21.8)	(5.1)		ABCDEF	普通	淡褐色	10		

第106表 第6号住居跡出土遺物計量表

計量値	土師器								須恵器							鉄石器
	環	皿	暗文環	鉢	甕	甌	台付甕	その他	環	蓋	鉢・鉢	高台環	皿・盤	壺	甕	
口縁部(片)	23	10	2		30											
(g)	514	150	11		1560											
体部(片)	40			3	357				2							
(g)	180			20	1745				11							
底部(片)																
(g)																

### 第7号住居跡 (第152図)

調査区南側中央の83-4・5グリッドに位置する。周囲は家屋の立ち退きによる攪乱が激しく、特に、本住居跡の南・北側は大きく攪乱を受けていた。このため、ほとんど住居跡の形態を留めていなかった。本住居跡の東側には第6号住居跡、北側には第10・11号住居跡、南側には第3・8号住居跡が位置する。

平面形態は不明である。規模はかろうじて東西軸長4.00mを測ることができた。南北軸長は西壁の残存部分で1.55mであった。深さは26.6cmと浅い。主軸方位はカマドの位置が不明なため南北軸の方向はN-52°-Eである。

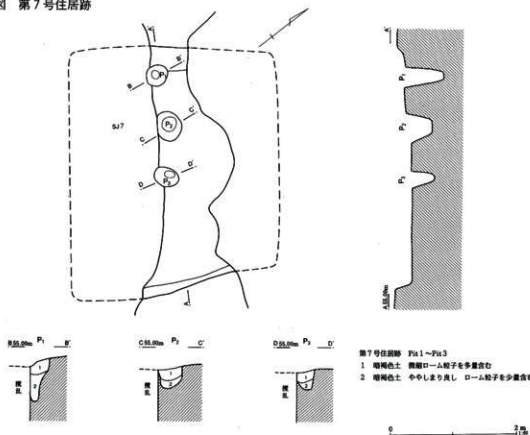
残存した床面は、ほぼ平坦である。床面の西寄りに柱穴を3箇所確認した。P1~P3の柱穴は住居跡との共存関係は不明である。P1は径36cm、深さ64cm、P2は径40cm、深さ37cm、P3は径34cm、深さ34cmである。住居跡の東壁は床面からほぼ垂直に立ち上がる。一方、西

壁は緩やかに立ち上がっていた。いずれも周溝は検出されなかった。カマド、貯蔵穴も確認できなかった。

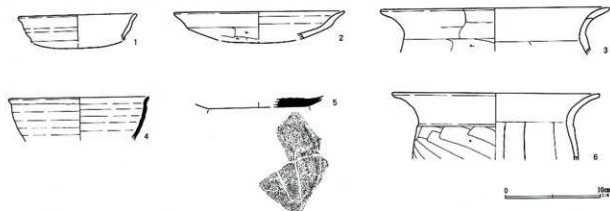
遺物は、土師器の坏、皿、甕、須恵器の坏をわずかに検出した。共存遺物として捉えるには疑問が残る。周囲の攪乱の状況から判断して混入したものが存在すると捉えられる。

第153図の1は有段口縁坏である。口縁部には弱い屈曲した段をもつ。2は土師器皿である。3・6は器肉のやや厚く、口縁部に最大径をもつ土師器甕である。3の口縁部は粘土の輪積みが残る。4・5は須恵器坏である。口唇部が屈曲し外に開いて立ち上がり、胎土中に白色針状物質が含まれ南比企産である。5は底部の器肉が厚く外面調整は手持ちヘラケズリを施す。胎土から未野産と判断される。

第152図 第7号住居跡



第153図 第7号住居跡出土遺物



第107表 第7号住居跡出土遺物観察表 (第153図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	土師器環	(12.4)	(3.5)	(3.5)	ABF	普通	黒灰褐色	10	P2	
2	土師器皿	(18.0)	(3.3)	(3.3)	ABDEF	普通	明褐色	15		
3	土師器甕	(24.2)	(4.6)		ABDF	普通	暗褐色	10		
4	須恵器環	(14.8)	(4.5)		AF針	良好	黒灰色	20		南比金産 末野産
5	須恵器環		(0.9)	(10.6)	ACDF片	普通	暗褐色	40		
6	土師器甕	(21.8)	(7.0)		ABCDF	普通	明褐色	30		

第108表 第7号住居跡出土遺物計量表

計量値	土師器							須恵器					鉄石器		
	環	皿	暗文環	鉢	甕	甗	台付甕	その他	環	蓋	鉢・鉢	高台環	皿・盤	壺	甕
口縁部(片)	2	1			4				1						
(g)	5	25			140				20						
体部(片)	4				44										
(g)	25				340										
底部(片)					5				2						
(g)					45				60						

## 第8号住居跡 (第154図)

調査区中央の84-5グリッドに位置する。周囲は攪乱が激しく、特に、本住居跡の南・北側は大きく攪乱を受けていた。このため、ほとんど住居跡の形態を留めていなかった。本住居跡の東側には軸を揃えて第3号住居跡、北側には第7号住居跡、南側には第4・5号住居跡が位置する。

平面形態は不明である。残存する規模は主軸長5.06m、副軸長は4.66mであった。深さは47cmである。主軸方位はN-54°-Eである。

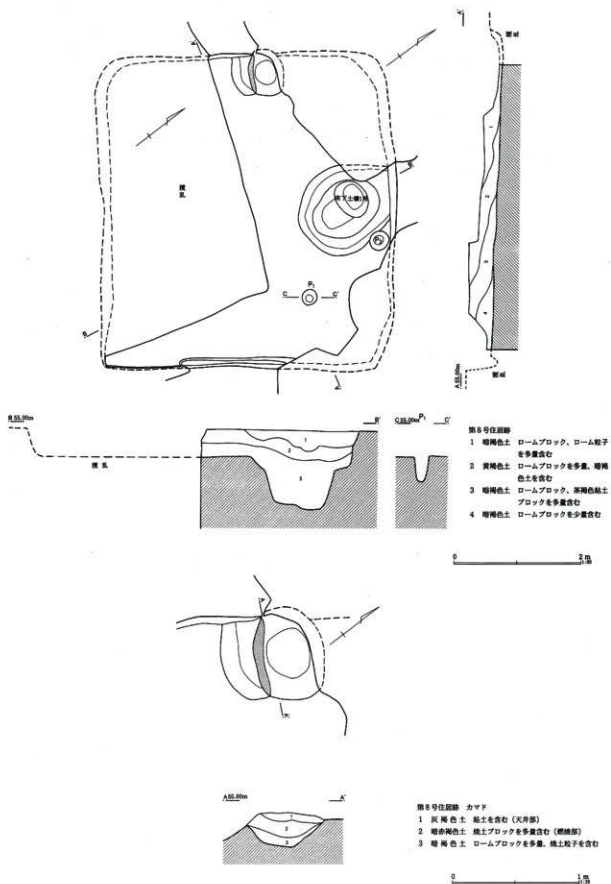
床面は、住居跡中央部分で検出されほぼ平坦である。壁は、カマドの付設された西壁、東壁、南壁のいずれも一部を検出した。南壁では周溝を検出し、幅16cm、

深さ3.8cmであった。また、住居跡の北壁際に床下土壌を検出し、規模は径158cm、深さ78cmであった。柱穴は、2箇所検出し、P1は径25cm、深さ37cm、P2は径33cm、深さ15cmである。

カマドは、西壁に検出されたが、北側半分は攪乱により検出できなかった。規模は全長130cm、焚き口幅80cm、深さ37cmである。カマド左袖は残存し内側は被熱により粘土が赤褐色に焼土化していた。

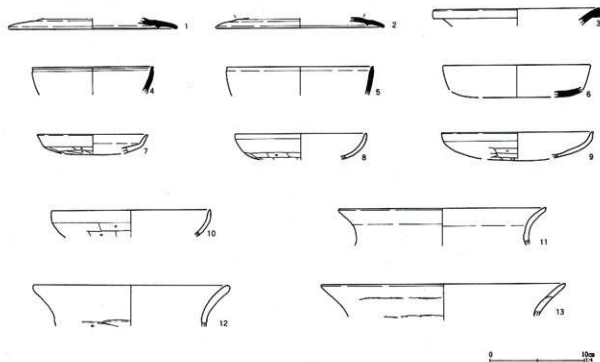
遺物は、土師器環、鉢、甕、須恵器環、蓋、壺、甕の破片が出土した。須恵器はいずれも末野産で占められていた。第155図4の環は口唇部が丸く外面に沈線が巡る。5は口唇部がつまみ上げられている。

第154図 第8号住居跡・カマド





第155図 第8号住居跡出土遺物



第109表 第8号住居跡出土遺物観察表 (第155図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	須恵器蓋	(17.8)	(1.2)		A C D F片	良好	淡灰色	20		未野産
2	須恵器蓋	(17.5)	(1.1)		A C D F片	良好	黒灰色	5		未野産
3	須恵器蓋	(17.4)	(1.8)		A F針片	良好	黒色	15		未野産
4	須恵器輪	(12.8)	(2.9)		A C D F片	普通	灰褐色	5		未野産
5	須恵器坏	(15.5)	(3.0)		A C D F	普通	灰色	5		未野産
6	須恵器坏		(1.0)		A C D F	普通	灰色	10		未野産
7	土師器坏	(11.6)	(2.1)		A B D E F	良好	橙褐色	10		
8	土師器坏	(13.8)	(2.7)		A B D E F	普通	暗褐色	20		
9	土師器坏	(16.0)	(3.0)		A B D E F	普通	暗褐色	10		
10	土師器坏	(16.8)	(2.3)		A B D E F	普通	淡褐色	15	87b	
11	土師器甕	(21.8)	(4.0)		A B D F	普通	褐色	30		
12	土師器甕	(20.6)	(4.3)		A B D F	普通	明褐色	20		
13	土師器甕	(25.8)	(3.8)		A B C D E F	普通	黒褐色	20		

第110表 第8号住居跡出土遺物計量表

器種	土師器							須恵器						鉄・石器	
	坏	皿	暗文坏	鉢	甕	瓶	台付甕	その他	坏	蓋	輪・鉢	高台坏	皿・盤		壺
計量値															
口縁部(片)	10			1	8				1	2	1			1	1
(g)	65			3	205				6	15	4			12	15
体部(片)	16		2		105										
(g)	70		12		570										
底部(片)					1				4						
(g)					15				26						